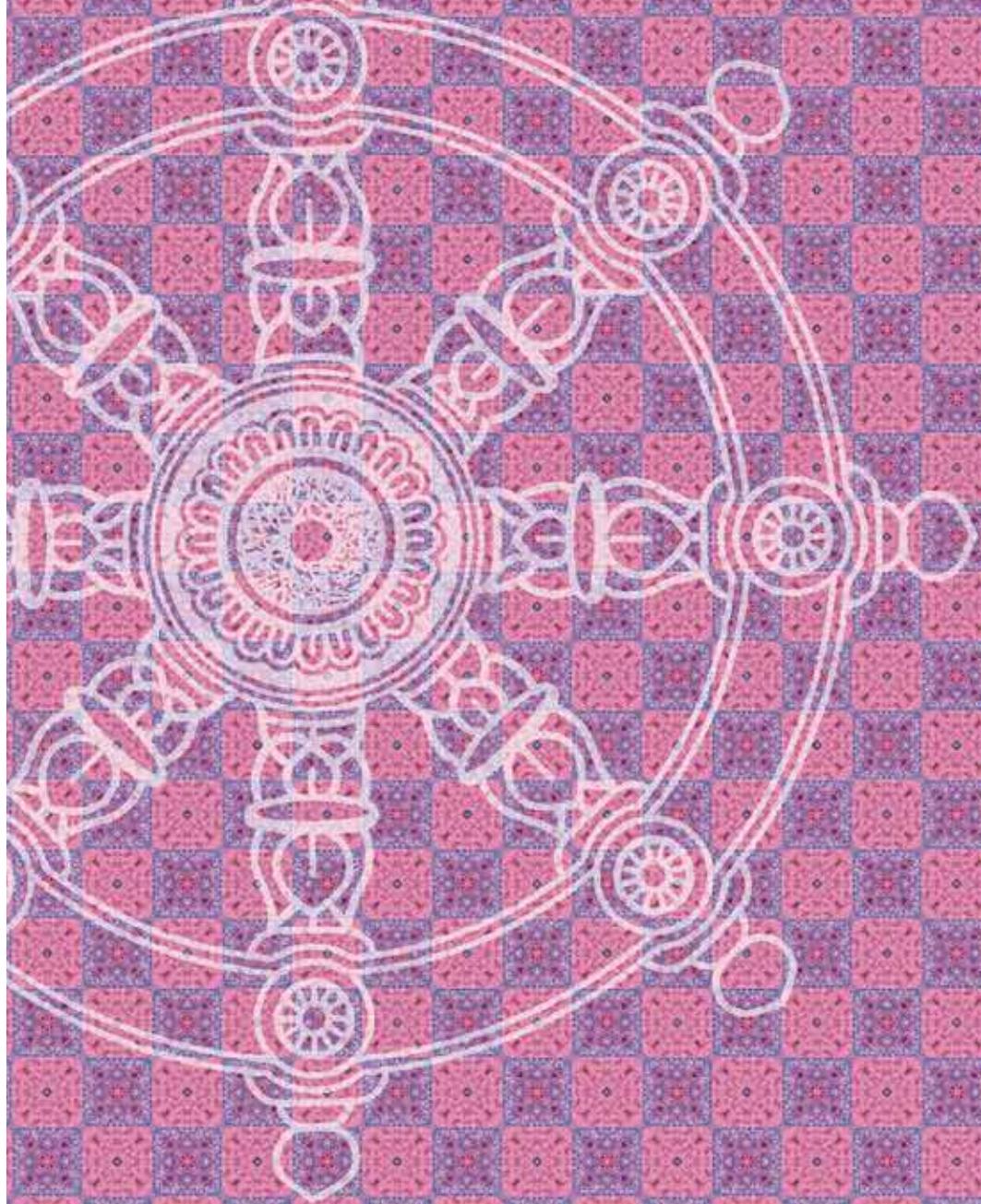


# 道

# みち

公益財団法人 仏教伝道協会

No.05  
2016



**BDK**  
Newsletter

# 慈悲と共生の 仏教精神を世界に

## 05

### CONTENTS

# 道みち

02

#### 設立50周年の節目の年を終え～記念事業報告

- 設立50周年記念式典開催 (於 ホテルニューオータニ)
- 第17回仏教音楽祭開催  
Buddhaspel (ブッダスペル) アニバーサリーコンサート (於 恵比寿ザ・ガーデンホール)
- 特別仏教講座「落語の原点 節談を聞く」開催 (於 仏教伝道センタービル)
- 「三田落語会 大感謝祭」開催 (於 浜離宮朝日ホール)
- 写真展 「ブッダのことばとインドの風景」開催 (於 福島県)
- 一日一訓カレンダー「フォトコンテスト～ほとけの心」実施  
～入選作品写真展開催 (於 浄土真宗本願寺派 築地本願寺)
- 設立50周年記念出版物刊行
- 第3回 BDKグローバル会議開催 (於 仏教伝道センタービル)

10

#### 公益財団法人 仏教伝道協会 平成27 (2015) 年度の主な活動

##### 1. 出版事業

- 『仏教聖典』頒布の今 平成27 (2015) 年度 頒布状況等
- シリーズインタビュー③ 『仏教聖典』を訪ねて  
\* 医療施設でも活用される『仏教聖典』 (於 社会福祉法人 浅草寺病院)  
特別対談: 黒田忠英師 (浅草寺病院院長) × 塩入亮乗師 (浅草寺山内法善院住職)
- BDK「英訳大蔵経」事業報告
- その他BDK出版書籍関連活動報告

##### 2. 助成・表彰事業

- 奨学金事業報告「外国人留学生奨学金」制度設置25周年を記念して
- 受給者名鑑『BDK Fellowships in the World』刊行  
\* 平成27 (2015) 年度外国人留学生奨学金受給者紹介  
\* 平成27 (2015) 年度日本人留学生奨学金受給者紹介
- 第49回仏教伝道文化賞
- 平成27(2015)年度 その他助成事業報告  
\* 「おてらおやつクラブ」の紹介

##### 3. 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催

- 第45回実践布教研究会開催 (於 曹洞宗 大本山永平寺)
- 知的仏教講座「禅を知る×書道を愉しむ」  
「人生がグッと楽しくなる、禅と書道」開催 (於 仏教伝道センタービル)
- 仏教聖典を初歩英語で学ぶ会
- 働く人のための坐禅会
- 仏教聖典を経営に活かす会 仏教聖典を生活に活かす会  
\* 合同夏季研修会開催 (於 千葉県・臨濟宗妙心寺派佛母寺、曹洞宗日本寺)
- 平成27 (2015) 年度 BDKシンポジウム「仏教における科学と信仰」
- 新設講座 「BDK仏教ヨガ講座」のご紹介  
\* ちょっとひと休み 現代人のための「仏教的ヨガ生活」のすすめ
- 「BDK仏教ヨガ講座」講師 ガッソ有香師に教わる 自宅で簡単ヨガポーズ

34

#### 海外協力機関の活動紹介

- 北米地区 米国仏教伝道協会/ハワイ仏教伝道協会/カナダ仏教伝道協会
- 中南米地区 メキシコ仏教伝道協会・メキシコ恵光寺
- アジア地区 アジア仏教伝道協会 (シンガポール)
- 欧州地区 ヨーロッパ仏教伝道協会・恵光日本文化センター (ドイツ)

42

#### “ささえあって” 「努力」



公益財団法人 仏教伝道協会  
会長 沼田 智秀



公益財団法人 仏教伝道協会

BUKKYO DENDO KYOKAI

BDKニュースレター No.5 2016-5,000

平成28 (2016) 年6月1日発行 (毎年1回発行)

発行 公益財団法人 仏教伝道協会  
〒108-0014 東京都港区芝4-3-14  
電話: 03-3455-5851(代)  
FAX: 03-3798-2758

編集・撮影 江口 郁 (公益財団法人 仏教伝道協会)  
印刷 株式会社アーク/デザイン 田所淳一



## 設立50周年を経て 新たな1年を迎え

昨年、仏教伝道協会は設立50周年を迎え、記念式典をはじめとする各種記念行事や記念刊行物の発行もお蔭さまで無事に終えることができました。この場をお借りして、ご支援・ご協力いただいております関係各位には篤く御礼申し上げます。

この50年間、『仏教聖典』の翻訳刊行、世界のホテルや病院等への寄贈を主軸に各種公益事業を展開し、近年はさらに、解りやすい仏教関連書籍の刊行や各種講演会、講座などを開催し、ひとりでも多くの人が仏教に触れられる機会をつくる活動に注力しております。

当協会の目的は、仏教精神の現代的理解を弘め、人類の幸福と世界平和に寄与することですが、依然として世界では、宗教、民族、文化、思想などの違いから残忍なテロや争いが治まるどころか激化している現状を見るに、本当に嘆かわしく、残念に思っています。

このような時代にこそ、仏教が持つ命の大切さ、共に生きるという精神をより強く世界に伝え、宗教、宗派の枠を超えて、互いに手を取り合い、平和の実現に向かっていかなければならないことと思っております。

設立50周年という節目の年を終え、今年からは次の50年、100年に向けた新たな一歩と考え、気持ちを新たに、時代の流れに即した活動を通して、社会に貢献して参る所存です。

引き続き、皆さまの変わらぬご教導を賜りますようお願い申し上げます。

合 掌

設立50周年の節目の年を終え、記念事業報告

# 設立50周年記念式典開催（於 ホテルニューオータニ）



主催者挨拶をする沼田智秀（仏教伝道協会会長）



浄土真宗本願寺派前門  
大谷光真師による祝辞



全日本仏教会理事長  
齋藤明聖師による祝辞



東京大学名誉教授  
木村清孝師による乾杯発声

平成27（2015）年11月27日、ホテルニューオータニ（東京都千代田区）において、「公益財団法人仏教伝道協会 設立50周年記念式典」を執り行いました。

仏教界の諸大徳をはじめ、日頃より仏教伝道協会を支えていただいている関係各位約370名のご臨席を賜り、お蔭さまで厳粛かつ盛大に挙行することができました。式典では、奈良康明師（曹洞宗大本山永平寺西堂・当協会理事）にご導師をお勤めいただき、三帰依文を一同で唱和し、続いて、会長の沼田智秀より、50年の活動を振り返りつつ、感謝の思いと今後の活動への決意を申し述べさせていただきました。

また、ご来賓を代表して、大谷光真師（浄土真宗本願寺派前門）、齋藤明聖師（公益財団法人全日本仏教会理事長）よりご祝辞を賜り、この50年間、宗派に偏らず仏教精神を国内外に弘めてきた当協会の活動にお褒めの言葉をいただくとともに、世界平和への貢献に対する期待をお寄せいただきました。

式典はその後、木村清孝師（東京大学名誉教授・当協会理事）の乾杯の発声により祝宴へと移り、ご臨席の皆さまには和やかな雰囲気のもとご



三帰依文を唱和する一同（導師：奈良康明師）



“鼓司”による和太鼓パフォーマンス



式典会場エントランス・エリア



記念DVD「仏教の叡智を世界に 仏教伝道協会のあゆみ」の一幕：発願者 沼田恵範



歓談いただきました。  
 祝賀パフォーマンスとして、三重県曹洞宗青年会の有志メンバーにて構成された和太鼓集団「鼓司（くす）」による和太鼓演奏を披露していただきました。「鼓司」は平成18（2006）年に結成され、現

在13名で県内外の寺院や、ホールでの仏教行事等で活動、法衣に身を包んだ僧侶による読経と和太鼓を組み合わせた荘厳かつ迫力のある演奏で会場は拍手喝采に包まれました。  
 限られた時間ではありましたが、永年ご支援・ご

協力をお願いしている皆さまに少しでも感謝の気持ちを表す機会を得て大変嬉しく思うとともに、記念式典開催にあたりお寄せいただいた皆さまのご厚意に深く感謝申し上げます。

## 第17回仏教音楽祭開催

# Buddhaspel (ブッダスペル)

# アニバーサリーコンサート

仏教伝道協会では事業目的のひとつとして「仏教精神とその文化興隆の為の啓蒙活動」を掲げており、その事業の一環として「仏教音楽の現代化とその普及」の活動を行っています。

平成27(2015)年は、設立50周年記念事業のひとつとして、9月11日に恵比寿ザ・ガーデンホールに於いて「Buddhaspel(ブッダスペル)アニバーサリーコンサート」第17回仏教音楽祭」を開催しました。

当日はホール一杯の500名を超えるご来場をいただき、第一部は太田裕美さんのコンサートで、「木綿のハンカチーフ」などのヒット曲を披露、会場は大いに盛り上がりました。続いて、姜暁艶(ジャ

ン・シヨウイェン)さんによる二胡の演奏で、がらりと雰囲気が変わり、柔らかな音色から勇ましい音色まで、伝統楽器の豊かな表情に会場は酔いしれました。

第二部は、迦陵頻伽聲明研究会とアンサンブル東風による「天竺憧憬—明恵の夢—」でした。真言宗豊山派の聲明作法にオーケストラ音楽を組み合わせた異色のコラボレーションで、仏教音楽の現代化を象徴するような演出でした。真言聲明のろうろ

うたる響きに、オーケストラによる音楽が、斬新で心地よいハーモニーを生み、僧侶たちの作法をより際立たせていました。また物語の場面に合わせて、スクリーンに映像が映し出され、臨場感のある情景に包

まれました。

音響・照明・映像の三つが一体となり総合芸術に昇華したような演出となり、心に残る音楽祭となりました。



歌手 太田裕美氏



二胡奏者 姜暁艶氏



迦陵頻伽聲明研究会とアンサンブル東風による「天竺憧憬—明恵の夢—」

## 特別仏教講座

# 「落語の原点 節談を聞く」開催

元来、落語の起源は、仏教精神を説く「節談説教」にあると言われていています。仏教伝道協会では、仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を中心とした落語を通じて、仏教精神の涵養と仏教文化の継承を目的に「三田落語会」を運営しています。平成27（2015）年4月2日には、仏教伝道センタービルにて、設立50周年記念・特別仏教講座「落語の原点 節談を聞く」を開催しました。

平日にもかかわらず、約150名の方がたが来場し、会場は満員となりました。節談説教をはじめ聞く方も多くいたため、始めに府越義博師（節談説教研究会事務局長）に節談説教の起源について解説していただきました。

続いて、桜庭尚吾師（浄土真宗本願寺派布教使）と

節談説教の第一人者である廣陵兼純師（真宗大谷派満覚寺）の両氏に、節談説教を講じていただきました。

高座の上で行われる節談説教の、大きな身振りや抑揚（節）をつけた言い回しは迫力があり、しだいに話に引き込まれ、会場がひとつになるような一体感がありました。笑いを誘う場面もあり、「落語の原点」ということにもうなずくことができました。



廣陵兼純師



府越義博師



桜庭尚吾師

## 「三田落語会 大感謝祭」開催 (於 浜離宮朝日ホール)

◎今後の開催スケジュールやチケット購入等、「三田落語会」の詳細は、公式ウェブサイトをご確認ください。 <http://mita-rakugo.com/>



柳家さん喬師匠

**日** 本の伝統芸能の多くは、その起源を辿ると、殆どが仏教の「節談説教」にあると云っても過言ではありません。そして数ある伝統芸能の中で、最も庶民に親しまれ、語り継がれてきたのが落語です。三田落語会は、正しい姿で継承した落語を、また埋もれている数多くの噺を掘り起こして新たに世の中に紹介し、たくさんの方の皆さまに楽しんでいただく落語会です。

昼、夜の二席の催しでしたが、いずれも満席で計700名以上の方にご来場いただきました。

昼席は、桃月庵白酒、露の新治、春風亭一朝、柳家さん喬の4名。夜席は、春風亭一之輔、柳家喬太郎、柳家喜多八、柳家権太楼の4名。昼、夜合わせて8名という大変豪華なラインナップです。

落語家の意気込みの伝わるネタはどれも迫力があり、聞き応えのあるものばかりで、落語を初めて聞かれた方にも分かり易く笑いの絶えない会となりました。落語家の間では、この三田落語会は、耳の肥えた常連さんいれば、初めて落語を聞く方もいる、また老若男女幅広い層の方がたが来場されるため、噺家の力量が試される落語会だと話題になっているのだそうです。

## 写真展開催 (於 福島県)

# 「ブツダのことばとインドの風景」 〜今を生き抜くために〜



### 写真展「ブツダのことばとインドの風景」

主催：公益財団法人 仏教伝道協会  
 企画協力：公益財団法人 中村元東方研究所、  
 NPO 法人 中村元記念館東洋思想文化研究所  
 後援：インド大使館



\*写真は会津会場として使用させていただいた道の駅「あいづ」

平成27(2015)年度は、仏教伝道協会設立50周年記念事業の一環として昨年度に引き続き、写真展「ブツダのことばとインドの風景」〜今を生き抜くために〜を開催しました。

お蔭さまで、平成26(2014)年より岩手県会場(北上市・宮古市・釜石市の3箇所)に続き東京会場(東京国際フォーラム内相田みつを美術館)でも開催し、13,000人を超える皆さまにご来場いただきました。今回は、未だ津波被害の爪痕が残る福島県での開催を実現することができました。

南相馬市の道の駅「南相馬」(9月19日〜23日)および会津坂下町の道の駅「あいづ」(9月25日〜30日)にて開催し、約1,700名の方がたにご来場いただきました。お越しいただいた皆さまには『仏教聖典』や『一日一訓カレンダー』、記念ポストカード等を配布し、多くの方がたに写真を通じてブツダのことばを聴き、静かに自己

を見つめ直す機会を提供させていただきました。

開催期間中は、会場内に「お坊さんとお話コーナー」を設置し、ご来場いただいた皆さまが地元在住の僧侶に悩みや相談事をお話しいただける場をつくりました。ボランティアで参加した僧侶からは「地元の人々の声をこうして直接聞くことができ嬉しい」「地域の声に耳を傾けることの大切さを改めて学んだ」という声もきかれ、地元の人びとと僧侶や寺院の存在をつなぐ良い機会にもなりました。



気軽にお坊さんと話をする来場者



会津会場



築地本願寺での写真展

## 第2回「一日一訓カレンダー」ほとけの心」実施 『一日一訓カレンダー』 入選作品写真展開催（於 築地本願寺）

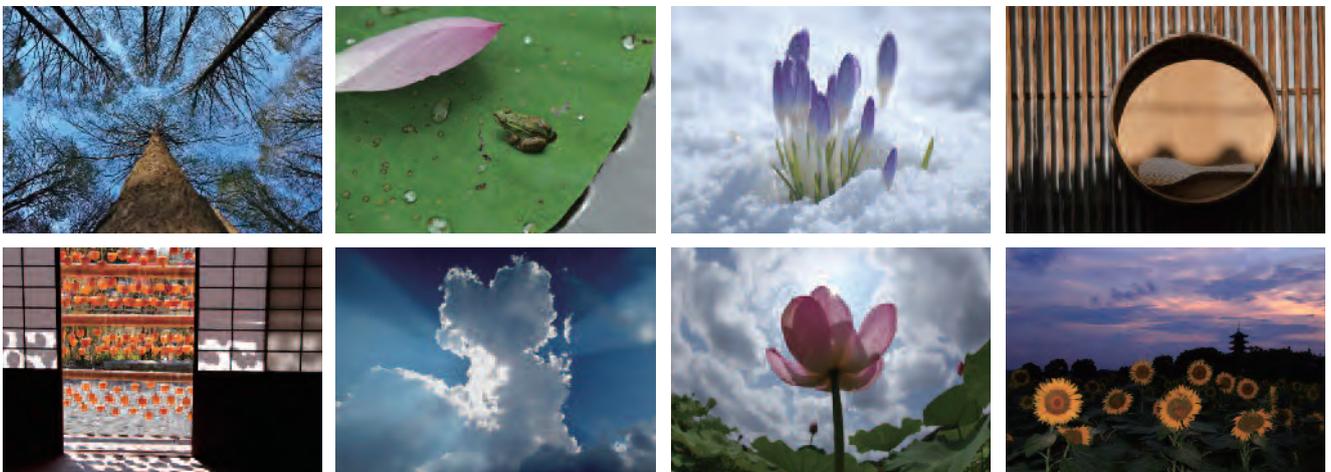
『一日一訓カレンダー』は、日めくりとして仏教にちなんだ31の文言と写真により構成され、全国の寺院、海外を含め、毎年15万部以上を頒布し、ご好評をいただいています。

この度、設立50周年記念事業のひとつとして第2回フォトコンテストの入選作品（入選作品は2017年用『一日一訓カレンダー』に使用させていただきました）をより多くの方が手に知っていただくために写真展を開催しました。観光客を含めさまざまな国の方が訪れる築地本願寺本堂（東京都中央区）の一角をお借りし、参拝者が多いお盆の時期でもある7月（開催期間…7月10日～24日）に実施したことで、日本人だけでなく、訪日旅行者の方がたにも楽しんでいただくことができました。

上半分に入選作品である写真、下半分にカレンダーの文言と英訳、解説を配置したA2サイズの大きな展示パネルを作成し、本堂入口に31枚を並べ仏教

伝道協会の活動のご紹介とともに掲示させていただきました。多くの参拝者の皆さまに足を止めていただき、また英訳を掲載していたこともあり、外国人の方がたにも好評で、パネルの写真を記念に撮る姿もみられました。築地本願寺の接遇係の方によると、7月は外国人旅行者も多く、お盆の時期ということもあり、2週間の期間中に約10,000人の方が参拝に訪れたとのことでした。

デジタルカメラやスマートフォンでの普及により写真愛好家が増えているなか、フォトコンテストや写真展の開催を通じて、自然に仏教に親しんでもらうことができました。今回の写真展にも使用した『一日一訓カレンダー』の31の文言を解説した『みちしるべ 八正道シリーズ 正しい行い―正業』（著…小川一乗師）も絶賛発売中です。



### ●写真展会場でのその他小冊子配布数

「はじめての仏教」2,141冊 「ブッダのおしえ」和文 1,227冊 「ブッダのおしえ」英文 552冊

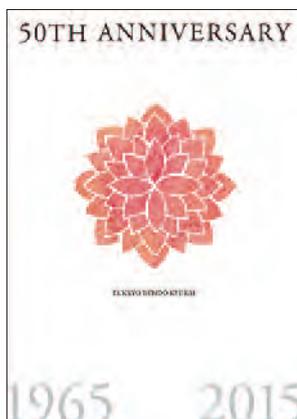
# 設立50周年記念出版物刊行



『みちしるべ名講話選』 智慧・慈悲2冊セット



『みちしるべ名講話選』  
ボックスカバー表紙



記念誌『仏教伝道協会50年史』  
(左：日本語版、右：英語版)



仏教聖典副読本  
『さとりを知恵を読む』

『仏教伝道協会50年史』は、過去の史料を整理し、皆さまに読みやすく、わかりやすくまとめ、記念DVD『仏教伝道協会のあゆみ 仏教の叡智を世界に』では、仏教伝道協会の発願者である沼田恵範のインタビュー映像も収録しています。さらに昭和62（1987）年より刊行を重ねご好評をいただいている『みちしるべシリーズ』より珠玉の名講話50篇を選び「智慧」、「慈悲」と題した『みしるべ名講話選』を出

平成27（2015）年の仏教伝道協会設立50周年にあたり、これまでの歩みを綴った記念誌『仏教伝道協会50年史』をはじめ、設立経緯から現在の活動までをまとめた記念DVD『仏教伝道協会のあゆみ 仏教の叡智を世界に』を制作しました。

版。また、この節目の年により多くの方がたに『仏教聖典』に親しんでいただけるよう、『仏教聖典』をわかりやすく解説した『さとりを知恵を読む——仏教聖典副読本』を刊行しました。

各記念出版物の刊行にあたり、これまで仏教伝道協会を支えて下さった皆さまに改めて感謝するとともに、今後の出版事業展開に向け気持ちを新たにしました。



記念DVD  
『仏教伝道協会のあゆみ 仏教の叡智を世界に』

# 第3回BDK グローバル会議開催 (於 仏教伝道センタービル)

仏教伝道協会は、同じ目的を持つ海外協力機関と連携し、『仏教聖典』の頒布活動をはじめとする、さまざまな公益事業を行っています。平成27(2015)年12月1日、2日の2日間にわたり、仏教伝道センタービル(東京都港区)に海外協力機関の代表者が一堂に会し、第3回目となる「BDKグローバル会議」を開催しました。

今回は、英国仏教伝道協会、カナダ仏教伝道協会、ハワイ仏教伝道協会、米国仏教伝道協会、メキシコ仏教伝道協会、ヨーロッパ仏教伝道協会(五十音順)から代表者が出席しました。はじめに仏教伝道協会の活動や今後の展望が発表され、その後、各代表者によって活動報告がなされました。改めて、それぞれの地域の需要に合ったアプローチを考え実行していくことが重要であることを再確認しました。

また全体会議では、今日のテロや紛争が世界各地で起こっている状況で、今後どのようにして世界のひとりでも多くの方がたに仏教の持つ慈悲と共生の精神を伝え、平和な社会の構築に貢献できるのが話し合われました。

仏教伝道協会は、今後も海外協力機関との連携を強め、国内のみに留まらず、世界的な視野を持つ公益活動を推進していきたいと考えています。



グローバル会議における「聖典普及会議」



浄土宗大本山増上寺を訪問した出席者一同

〈平成27(2015)年の『仏教聖典』頒布状況〉1月～12月

	件数	寄贈冊数	販売冊数	
国内	ホテル(新規)	12	1,690	
	ホテル(補充)	311	48,599	
	病院(新規)			
	病院(補充)	6	107	
	学校(販売)	8		9,310
	学校(寄贈)	359	57,851	
	寺院(販売)			4,311
	寺院(寄贈)		666	
	一般他販売			587
	書店			1,813
	寄贈		2,414	
国内頒布数計		111,327	16,021	
海外	海外協力機関		52,900	
	ホテル	11	1,580	
	その他	28	1,250	
	海外頒布数計		55,730	0
総計		167,057	16,021	

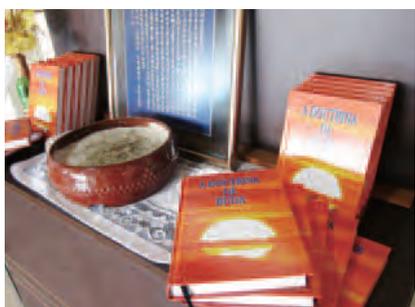
仏教伝道協会の主要事業の一つである出版事業ですが、設立50周年を迎えたことを新たな機会とし、初心に立ち返って、国内外のホテルへの『仏教聖典』の頒布活動に力を注ぎました。その結果、補充・寄贈を中心に51,869冊を寄贈させていただくことができ、平成32(2020)年開催の東京オリンピックに向けて、今後増え続けるであろう外国人観光客の動きを注視しつつ、日本語版だけでなく各国語版の寄贈活動にも力を入れていく予定です。

# 01

Activity

## 『仏教聖典』頒布の今

### 平成27(2015)年度の頒布状況等



平成24(2011)年度に開始し、4年目を迎えた仏教系学校や保育施設等への頒布活動は、今年度は359校に57,851冊を寄贈、寄贈開始からの累計寄贈数は約24万5千冊となりました。これは仏教系高校・大学の約60%、仏教系保育施設の約25%にあたります。価値観が多様化する中で、何を「選択」し、何を「ものさし」とすれば良いのか迷うとき、よりよく生



Zen Lotus Flower Center 在ブラジル禅センター

きるための羅針盤として、仏教の教えが少しでも多くの学生・保護者の皆さまの心の支えとなることを願っています。

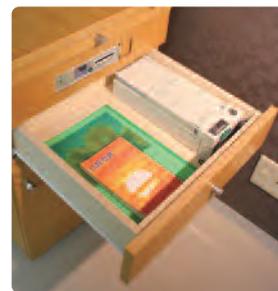
その他海外で活動する日系寺院や、禅センターなど

からもウェブサイトなどを通じてたくさんのお問い合わせをいただいています。それぞれの国や地域に合った言語版の『仏教聖典』を寄贈し、教えを弘めるための一助にさせていただいています。

# 1 出版事業

Publication

# 『仏教聖典』を訪ねて 医療現場でも活用される『仏教聖典』



病室内の引き出しに常備されている『仏教聖典』

◎進行=山村 正範 (公益財団法人 仏教伝道協会)  
◎編集・撮影=江口 郁 (公益財団法人 仏教伝道協会)  
◎場所=社会福祉法人 浅草寺病院 (東京都・台東区)



特別対談

黒田 忠英 師

(浅草寺病院院長・浅草寺山内金剛院住職)

×

塩入 亮乗 師

(浅草寺山内法善院住職)

仏教伝道協会は、長年『仏教聖典』の頒布を主軸のひとつと位置づけ出版事業の中心として継続的な活動を行ってきました。近年は、頒布活動の足がけとなったホテルなどの宿泊施設に加え、寺院、教育機関、医療・矯正施設など、さまざまな場面で活用されています。

今回は、この『仏教聖典』を病院内でご活用いただいている社会福祉法人浅草寺病院院長の黒田忠英師(浅草寺山内金剛院住職)にお話を伺うべく、特別企画として、各メディアでも活躍中の塩入亮乗師(浅草寺山内法善院住職)を交え、浅草寺病院および浅草寺を取り巻く環境と『仏教聖典』の今後の活用について話し合っていました。

**山村** まず始めに、浅草寺病院とはどのような病院なのかご説明いただけますか。

**黒田** 浅草寺病院は、明治43(1910)年に東京の街全体が大洪水に見舞われたことがあり、ことに下町の被災者救護を目的に、当時の浅草寺貫首と信徒総代とが話し合った結果、境内を開放して救護所を設置し、被災者を支援したのがはじまりです。その後の震災や戦災などを経て現在の「社会福祉法人浅草寺病院」というかたちになったわけです。

**山村** 医療法人ではなく社会福祉法人なのですね。

**黒田** あくまでも地域医療に密着したかたちでの運営を基軸に

社会福祉活動にも力を入れ、観音様の大慈悲の御心にそって、思いやりと温かい心で医療活動に取り組んでいます。したがって当院は観音様の抜苦与楽(慈悲、苦しみを抜いて福樂を与えること)の精神を実践する場になればと思い、設立当時の救護所からはじまったことを常に思い起こしながら運営しています。ですから、社会福祉法人として所得の低い方がたには無料診療を行うなどの活動もしています。

**塩入** 先程の明治43年の大洪水の話ですが、これは明治期最大の洪水といわれ、台東区内だけでも床上浸水42,000戸以上、救助人員24,000人近くあったといい、浅草の遊園地(花やしき)の前を船で通行する写真なども

残っています。

**山村** なるほど。大災害で被災された方がた、困っている方がたを救ってきた歴史を歩まれ今日に至るのですね。

**塩入** そうですね。ところで、病院といえば、よく巷で聞かれるのが「〇〇病院の△△先生が良いわよ」というような患者さんの評判がありますよね。この場合、一体「良い」の基準は何なのでしょうか。

**黒田** まずは、身体的苦痛(痛みなど)を取り除いて差し上げるのはもちろんですが、困っていること(ストレスなどの心の問題)を取り除くために、じっくりと患者さんの話を傾け、心を解放する手助けをすることが大切です。そこから痛みの原因が見つかることもありますね。

**塩入** 話を聞いてくれる安心感が免疫力に良い影響を及ぼしたりなんてこともあるのでしょうかね。

**黒田** そうですね。医療の根本は「手当て」で、身体に触れるだけでも大きな効果があると思います。患者さんは、ただでさえ何

らかの不調を訴えて病院にいらつしやるわけですから、当然何事も悪い方向に考えがちです。心のケアを最優先に、本当に訴えたいことを聞き出すことも重要かと思えます。看護の「看」の字は手に目と書きまますよね。手が目の働きをするのです。「手当」は看護の基本です。心を開くために手を当てる。手から得られるものによつて患者さんと私たち医師・看護師たちとの間に「この人たちなら任せられる」という信頼関係ができていくのだと思います。

**山村** ありがとうございます。では、仏教と医療との関係についてはどうにお考えでしょうか。

**塩入** 浅草寺には「観音会説法」という儀式がありまして、これは浅草寺の支院(浅草寺には現在24の支院、一般的にいう塔頭寺院が存在している)の住職になる際に、浅草寺貫首ならびに支院の全住職の前で説法をするというものなのですが、黒田院長は、当時仏教と医療を取り上げた内容を話されていたと記憶しています。

**黒田** はい。仏教と医療とのつながりといえば、一例として浅草寺には「楊枝浄水加持会」という行事があります。これは無病息災を願い、浄水を楊枝(柳の枝をさした水瓶に移し、本堂内に設けられた別壇において、希望されるご信徒一人ひとりの頭に灌ぐという儀式です(毎年6月18日に本堂にて執り行われる)。これを受けると病苦をまぬがれるなどのご利益があるといわれ毎年多くの方がたが参拝されるのですが、実は、この柳の枝から抽出される成分として、現在の頭痛薬の成分としても有名なアスピリンがあげられます。この話からも分かるように、仏教と医療とは、古くから深いつながりがあったと思われ、そういうような話をさせていただきました。

**塩入** 本当に面白いですね。柳のお加持と言えば、三十三間堂(京都・天台宗妙法院門跡)の行事がよく知られていますね。ある時、後白河上皇が頭痛に悩まされていたその原因を占ってもらったところ、「上皇の前世の頭蓋骨が川底に沈んでいる。その體を貫いて柳の木が生えていて、風が吹くと柳の木が揺れ

て體に触れ、上皇の頭が痛むのだ」というものでした。そこで、川を調べさせたところ、本堂に體が見つかつたため、その柳を取り除いて三十三間堂の梁に使用して供養したところ、上皇の頭痛が治まつたという話があります。ですからあの時代から柳と頭痛とは、西洋の医薬の発達以前のこととして既に仏教的にも関係があつたのですよね。

**山村** そんな身近なところにも仏教と医療にはつながりがあるたのは驚きですね!

**黒田** 口先だけではなく宗教者としても医療人としても、観音会説法で皆さまの前で誓つたからにはどこかで実現していくしかないという、ある種開き直りともいいます(微笑みながら)私の決意表明でもありました。また浅草寺は聖観音宗の総本山ですから、観音様の働きを実践する、という意味では現在の看護師さんたちも、その分身のような立場にあつて最前線で頑張つてくれていると思います。そのようなことを考えていた頃だつたでしょうか、「仏教聖典」に出会つたのは。

**山村** どのようなかたちで、初めて『仏教聖典』に接したのですか。

**黒田** はい。塩入先生が仰つた観音会説法をするために、何を話そうか自分の中で迷つていた時、改めて仏教と医療を見つめ直す機会を得ました。その時に『仏教聖典』に出会つたのです。仏教は、一般の方がたにとつて、分かつた、分らないではなく、目を覚ますきっかけを与えてくれるような存在であつて欲しいと思つてはいるのですが、『仏教聖典』はその気付きを与えてくれ、心に働きかける存在であると思えました。

**山村** では、心と病気の関わりについてはいかがでしょうか。

**塩入** 黒田院長は漢方などにも精通されているのですが、何事も「氣」というか、心の流れが安らかになれば、恐れがなくなり、心が落ち着き元気になることも多いですね。観音様の働きは「施無畏」といって、恐怖心を取り除くというものです。また、よく皆さんは「元氣になりたい」と仰いますが、「病氣」という文字から「病」を取り除くと、「元の氣」すなわち「元氣」に戻ります。



待合ロビー内に安置されている観音像

**黒田** 東洋医学では、塩入先生の仰るように「氣を元に戻す」ことが重要といわれています。それが医療の根本かと思えますし、医者としての使命でもあると感じています。

よく病気になる前の状態を「未病」と言つて病気の診断をつけられないような状態があります。一般的に「氣のせい」などといつて聞き流してしまふこと

もありませんが、まさに「氣」が病の原因なのです。そういった未病の時にこそ漢方薬などの東洋医学的なものを用いて「氣」を整えることにより解決できることは沢山あるかと思えます。

**塩入** 氣が抜ける、氣を失う：色々ありますが、どんな状態に陥つてもそれを元の状態に戻してあげること、心の状態を元

に戻して整えてあげることが医療では大事ですよ。

**山村** なるほど、そうですね。ところで、現在浅草寺病院には『仏教聖典』を各病室に設置していただいています。今後の医療現場においてどのような活用が考えられますか。

**黒田** 核家族が増えた影響もあり目の前で人が亡くなるという経験をされる方がたは少なくなっているかと思いますが、私たちは、最後まで患者さんの心を解放して差し上げたいと考えています。

これからは在宅看護・介護の時代です。人の死など、あまり経験したことのない出来事に対して、心の痛みを受け入れる体制は不十分であり、今後残された

家族が大きな負担を強いられることが予想されます。様々な問題に直面する中で、目を覚ます、「氣付く」きっかけを与えてくれるのが『仏教聖典』だと思っています。やはり文字を読むことによつて冷静にも考えられま

すし、目の前のことに氣付いて欲しい、そのような願いがあります。ことに『仏教聖典』には、ごく当たり前のことが書かれています。それが私たちが忘れてしまふことがあるわけです。

医師の立場からしても残された家族が死というものを受け入れられるようにすることは大切なことだと考えています。人の死に触れる経験が減っているため、身内が亡くなるという事実を受け入れられない方も多くいらつしやいます。そのような出来事は当然ながら誰かから教わる機会もありませんから、僧侶

とある種中立的な存在であれば、第三者的な立場で一般の方がたと接していけるのではないかと思えます。

**塩入** 本当にそうですね。実生活において会話で心が解放されることつて多いですよ。例えば家族を亡くして氣持ちが沈

んだままの方がいらつしやるとして、仏教では仏壇という存在があります。多くの場合、寂しい氣持ち、癒やされたいと願う氣持ちがありながら、必ずしもすぐに誰かと会話ができる状況にないと思うのですが、そんな中で仏壇にそつと話しかける、氣

持ちははき出す、そういう風景がよく見受けられます。やはり苦しい氣持ちをずつと押し殺していたら誰でも氣が減入つて鬱状態になつてしまふですよ。そんな時に仏壇に話しかける、それだけで氣が晴れることは多々あります。

しかし病院に入院してしまつていたら、それさえも容易にできません。お見舞いに来てくれる家族や友人、看護師、医師、色々な人がいますが、皆さんが常時話し相手になつてくれるわけではありません。そんなときに癒やしてくれる存在になるのは、やはり文字や音声などですよ。でも音声(主にここではテレビやラジオ)の場合には、好きな時間に好きなものを必ずしも見たり聞いたりすることはできません。ですから『仏教聖典』の存在は素晴らしいですよ。いつでも好きなときにそこに居てく

**黒田** 実際に、お寺(仏教)↓死、病院↓生というイメージをお持ちの方も多々いらつしやるかと思いますが、病室で『仏教聖典』を読んでいただくことで、ご自身での認識を深め、心を解放する手助けになると良いですね。

『仏教聖典』は、心のケア、自身自身への「氣付き」を得るきっかけになつていると思えますし、今後もそのような存在であつて欲しいと願っています。

**塩入** 黒田先生が仰るように、病院と寺とは、一般的には生と死の対照的なイメージがあるものの、むしろ密接な関わりがあります。そして心のケアには、私たち宗教者の関わりは有効かと思えます。医者や看護師は医療技術のプロフェッショナルですが、僧侶は心を解きほぐすカウンセラー的な役割を担つていると思えます。その中で一般の方

でも読むことのできる『仏教聖典』の存在はありがたいことですね。

山村 ありがとうございます。

すでに多くの『仏教聖典』を浅草寺病院内に設置させていただいており、入院されている患者さまに直接読んでいただく御縁もいただき本当に嬉しく思います。が、今後の『仏教聖典』やその他の出版事業の可能性をどのようにお考えでしょうか。

塩入 世の中には沢山の弱者が存在しています。そのような方がたを少しでも救いたいですね。病院内のことを言えば、小児病棟などは、本当に見てもらえないですね。なぜこんな小さな子が…そう思うと耐えがたい

ものがあります。そして妊婦の方や子育てに悩む方にも是非『仏教聖典』を読んでいただきたいですね。

今「子供」の存在が危ないと感じています。昨今のニュースでも子供の虐待やいじめ等々、子供に関する殺傷事件が多発しています。子供たちの心を解放し、みんなで見守る社会になると良いですね。子供たちは無垢で無抵抗な存在ですからね。親子で読めるような『仏教聖典』があると良いかもしれません。既に仏教伝道協会さんでは、マンガや手帳に読めるような冊子を多く出版されていますね【『まんが仏教のひみつ』…平成25（2013）年（株）学研プラスと共同で刊行／（社）日本PTA全国協議

会推薦／監修 前田専學（東京大学名誉教授）】。『仏教聖典』の方も、もう一步進化させていただき、もつと柔らかく小学生でもわかる聖典があると最高ですね。挿し絵などもたくさん入れるといいと思います。大人目線だけではなく、子供でも老人でも誰もが親しめるようなそんな一冊であれば更に活用ができるのではないのでしょうか。

黒田 浅草寺病院では、現在病室の引き出しの中に『仏教聖典』を常備していますので入院中の患者さんがいつでも気軽に手にとっていただけ状態です。病室の窓からは、浅草寺の境内や五重塔を臨むことができますし、ロビーには大きな観音像を安置しています。観音様に見守られている

安心感をもって通院、入院されている方も多くいらっしゃいます。お寺の病院というメリットを活かして、今後緩和病棟などの設置も視野に入れていけたらと考えています。治療ばかりではなく「養生」できる環境を提供していきたいですね。

黒田先生は浅草寺病院の院長に就任されてから2年という話でしたが、将来的な展望をしっかりと見据え、実直且つ柔和な人柄で、塩入先生の親しみやすい話ぶりと相俟って時間があつとと言う間に感じられました。お二方に浅草寺および浅草寺病院の長い歴史に沿って様々な視点で、医療現場と『仏教聖典』の存在について話を伺うことができ、また『仏教聖典』に対する建設的なご意見

の数々を頂戴することができました。今後も医療現場における活用を推進するとともに、未来を担う幼い子供たちから、日本を長年支えてきてくれた高齢の方がたまで幅広く親しんでいただける『仏教聖典』や書籍づくりをすすめてまいります。

◆その他、社会福祉法人 浅草寺病院についての詳細は下記にてご確認ください。  
公式ウェブサイト  
<http://www.sensoji-h.or.jp/>  
『仏教聖典』やその他出版事業に関するお問い合わせは仏教伝道協会公式ウェブサイトにてご確認ください。  
<http://www.bdk.or.jp/>



## 黒田 忠英

くろだ・ただひで

社会福祉法人浅草寺病院院長  
聖観音宗・浅草寺山内金剛院住職

●昭和46（1971）年東京生まれ。杏林大学医学部卒・医学博士。平成26（2014）年に社会福祉法人浅草寺病院院長に就任。



## 塩入 亮乗

しおいり・りょうじょう

社会福祉法人浅草寺病院評議員  
聖観音宗・浅草寺山内法善院住職

●昭和29（1954）年東京生まれ。成城大学文芸学部文化史学科卒業。大正大学大学院（仏教史学専攻）修士課程卒業、同博士課程単位取得満期退学。主な著書（いずれも共著）として、『来世をどう説くか』（四季社）、『仏教行事散策』（東京書籍）、『宗派別お経のすべて』（日本文芸社）、『浅草謎とき散歩』（KADOKAWA/中経出版）ほか多数あり。

02 Activity

**BDK「英訳大蔵経」  
事業報告**

海外でも、本事業は多くの支持を得ており、カリフォルニア大学バークレー校のマーク・ブラム教授の翻訳で平成26(2014)年に発刊

した『大般涅槃經(1)』の英訳が、最も優秀な翻訳として栄えある「2015 Khyentse Foundation Prize」(財団の活動等詳細についてはこちら



ジャンボリーにて笑顔で「まんが仏教のひみつ」を受け取るガールスカウトたち

↳ <http://khyentsefoundation.org/> )に選ばれるなど、国際的にも高く評価されています。またウェブサイトで公開された英訳典籍は、アメリカ国内のいくつかの大学において、仏教入門の授業用教材として採用されるなど、「英訳大蔵経」は着実に世界に広まっています。

03 Activity  
**その他 BDK  
書籍関連活動報告**



日本では44年ぶりとなる第23回世界スカウトジャンボリーが、山口県阿知須きらら浜において7月28日から8月8日まで開催され、

5,000冊、『ブツダのおしえ』とともに配布し、世界の青少年に日本仏教とその精神を紹介しました。

162の国と地域からおよそ34,000人の青少年が参加しました。ボーイ(ガール)スカウトでは、明確な信仰を持つことを奨励しており、世界中のさまざまな宗教が紹介されます。仏教伝道協会では、この大会において『仏教のひみつ』の英訳版である『The Wisdom of Buddhism in Japan』を

その他、仏教に馴染みのない方がた向けの冊子として仏教の歴史や宗派、仏教用語などを簡潔に解説した『とつてもやさしい はじめの仏教』を新たに作成より身近に仏教を感じていただくツールとして寺院を中心に約90,000冊を配布しました。



2 助成・表彰事業

奨学金事業報告

「外国人留学生奨学金」制度設置25周年記念を記念して  
受給者名鑑『BDK Fellowships in the World』刊行

当協会の助成事業の支柱を担う奨学金事業ですが、平成27(2015)年を以て「BDK Fellowship for Foreign Scholars (BDK外国人留学生奨学金制度)」は25周年を迎えました。

外国人留学生奨学金の制度は、海外から来日し仏教研究を行う外国籍の学者、研究者または学生に対して、それぞれが自国に戻り、日本で学んだ仏教精神、文化等を、学問を通じ、ひろく世界に伝えていただきたい、との願いから平成3(1991)年に設置されました。25年の歳月がながれ、奨学金審査委員会は、平成27(2015)年度までに、のべ68名の素晴らしい人材を採用してきました。また現在では日本、ドイツ、カナダ

の3ヶ国において、外国人留学生奨学金および日本人留学生奨学金を含む計5つの仏教伝道協会に関連する奨学金制度が運営されており、いずれも優秀な人材を輩出し続けています。

元受給者の多くは、世界各国の仏教学界の第一線で活躍されています。この度25周年の軌跡を辿るとともに、多くの元受給者の方の近況をまとめた『BDK Fellowships in the World』(奨学金受給者名鑑)を編

集・刊行させていただきました。

仏教伝道協会では今後も未来の仏教学界を担う人材を積極的に採用・育成し、少しでも多くの方がたに学問を通じて仏教の叡智が伝わることを願っています。

外国人留学生奨学金制度の詳細については、仏教伝道協会公式ウェブサイトをご覧ください  
<http://www.bdk.or.jp/>

※『BDK Fellowships in the World』(奨学金受給者名鑑)に関するお問い合わせは仏教伝道協会事務局までお気軽にどうぞ



平成28(2016)年度  
「外国人留学生奨学金」受給者紹介

## 「外国人留学生奨学金」 制度のご紹介

「外国人留学生奨学金」  
制度は、海外から来日し仏  
教研究をする外国籍の学  
者、研究者または学生に対  
して、それぞれが自国に戻  
り、日本で学んだ仏教精  
神、文化等を、学問を通  
じ、弘く世界に伝えていた  
だきたいとの願いから平成  
3(1991)年に設立さ  
れました。

第26回目となる平成28  
(2016)年度募集分  
は、2月に開催された審査  
委員会による厳正な審議の  
結果、左記2名(アルファ  
ベット表記順に記載)を選  
びました。

### ●Emanuele Davide Giglio

(エマニエーレ・ダヴィデ・ジッリオ)氏

所属機関：東京大学

研究テーマ：日蓮撰『諸法実相鈔』(真蹟非現存および真偽未

決)に関する方法的・書誌学的・思想的的研究

### ●Katarzyna Marciniak

(カタジナ・マルチニャック)氏

所属機関：創価大学・国際仏教学高等研究所

研究テーマ：大衆部説出世部(マハーサーンギカ・ローコツ

タラヴァーダ)の文献『マハーヴァストゥ』の  
仏教梵語を、最古の写本二本(MS Sa, MS Na)  
を使用し研究予定

新たな2名の受給者の方  
がたにも期待を込めつつ、  
昨年度の奨学生として既に  
受給期間を終了した方がた  
からの報告が届いています  
のでご紹介します。

第25回

平成27(2015)年度

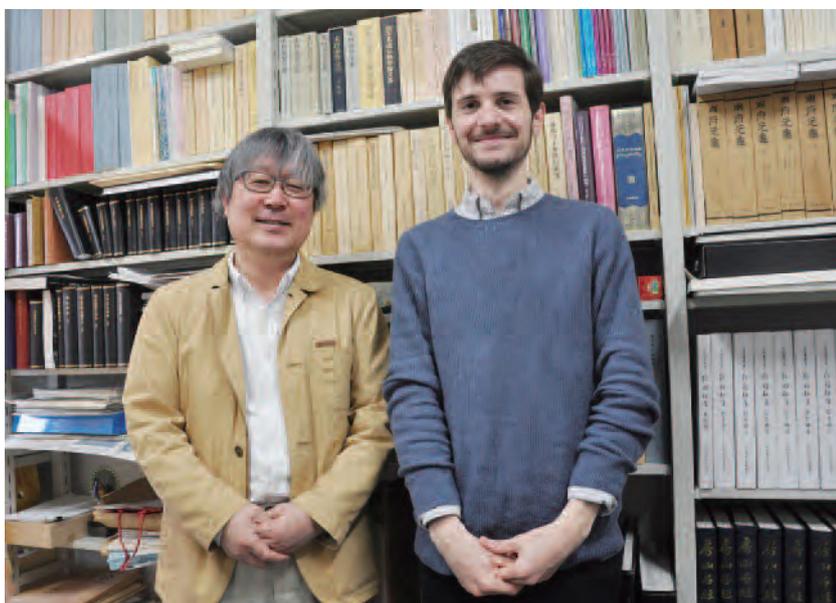
## 外国人留学生奨学金 受給者

- 1 当協会の奨学金に応募したきっかけ
- 2 奨学金を受給して最も良かったと思うこと
- 3 奨学金受給後の展望

### ◇ケビン・バカル (Kevin Buckelew) 氏

■所属機関/京都大学人文科学研究所

■研究テーマ/唐・宋・元代中国の禅仏教における隠者



京都大学にて  
2015年度奨学生のケビン・バカル氏と指導教授の船山徹先生

1 仏教学の分野で、仏教  
伝道協会の奨学金は大変よ  
く知られています。こちら  
の奨学金に採用されるのは  
かなりの難関だと言われて  
いますが、指導教授や先輩  
たちから挑戦することを勧  
めていただきました。正式  
に採用されたことを知らざ  
れた時はとても嬉しかったです。  
仏教伝道協会の奨学  
金のおかげで、京都大学人  
文学研究所の船山徹教授  
のもとで1年間、博士論文  
の研究をすることができま  
した。日本の文化と宗教を  
研究するために日本に留学  
できるという奨学金はよく  
ありますが、日本以外の国  
における仏教について研究  
できる奨学金は数少ないの

で、仏教伝道協会の奨学金は仏教学全体の振興にとって大切な存在だと思っております。

**2** 仏教伝道協会の奨学金の受給者として、京都大学の恵まれた環境で研究ができ、日本にのみ現存している一次資料を発見し、たくさんさんの寺院を拝観、仏教的儀式を直に見ることができ、大変ありがたいことだと思っております。そして仏教学の知識を深め更に読解

の訓練をすることができています。国籍に関係なく、このような日本の豊かで歴史の長い仏教学界に足を踏み入れさせていただき、本当に光栄だと感じています。

**3** 日本での1年間の滞在の後、台湾の中央研究院にて更にもう1年間、博士論文の研究をさせていただくつもりです。日本と台湾と、こちらに来る前には中国に3ヶ国での経験は、博士論

文執筆にあたっての大切な基礎をつくってくれていきます。アメリカに帰国後は博士論文を終えて大学院を卒業、いずれは日本での経験を活かしアメリカの大学で教授職を得て、次世代に仏教の世界を紹介できるような立場になりたいと思っています。そして今後も様々な国の仏教学がお互いに関わり合いながらいくことを望んでいます。

◇ **崔 境眞 (Kyeongjine Choi) 氏**

■ 所属機関／東京大学大学院 人文社会学系研究科

■ アジア文化研究専攻インド哲学・仏教学専門分野 博士課程

■ 研究テーマ／ダルマキールティの刹那滅論証とチベット人による思想的発展

**1** 私が仏教伝道協会の奨学金に応募した時は、博士課程の3年目で、丁度学内の奨学金の契約が切れるところでした。授業に出る単位を取得し、学会で活動しながら博士課程の3年間を過ごした後、その次にや

しかし博士課程の3年を過ぎると、学内外問わずに応募できる奨学金が極端に少なくなり、数少ない奨学金の中で、貴協会の奨学金の存在を知り、藁にもすがる気持ちで応募しました。まさか受かるとは思っておらず、学外でのアルバイトを探していた真最中でしたが、採用のお知らせをいただいた時は、とても嬉

しくてホッとしました。しばらく誰にも知らせずに自分の中で密かに喜びを味わっていました。

**2** 貴協会の奨学金を受給していた1年間、博士論文に専念し書き上げることができたことが、最も嬉しいことでした。単なる金銭的援助をいただいたという認識ではなく、博士論文を書ける時間とチャンスを与え

ていただいた、と考えています。生活費と学費の心配をしつつ、外でアルバイトをしながら博士論文を書くという環境のもとでは、1年で書き上げることが難しかったと思います。何一つ不自由の無い時間が与えられたからこそ、平成27(2015)年度末までに博士論文を書き終えるという目標

が達成できました。その意味で、私は貴協会の奨学金を受給して、1年間の日本留学という簡単な言葉では言い表せない、それ以上の大事な経験をさせていただけだと思います。

**3** 奨学金受給後も、暫く日本に滞在し、仏教学の研究を続けたいと思っております。博士論文を書く中で直



東京大学にて  
2015年度奨学生のキョンジン・チョイ氏と指導教授の斎藤明先生

面した諸問題や新たな研究課題を解決するために、もう1年をかけて博士論文を補足し、出版に向けて整えていく予定です。また、博士論文では仏教論理学およびチベット仏教を中心に研究を続けてきましたが、これからは視野を広げてより幅広いテーマをもって仏教

の研究を続けていきたいと思っています。また、理想的には今まで貴協会を含め、諸先生方の恩恵を受けて培ってきた知識や経験を何らかの形で社会に還元できれば嬉しいと思っています。それが私なりの回向だと考えます。

## 平成28(2016)年度 日本人留学生奨学金受給者紹介

「日本人留学生奨学金制度」は、日本から海外に渡り国際的な視野を養い、将来の仏教学術振興に貢献しうる日本人の若手研究者を育成したいという願いから、平成24(2012)年に設立しました。

第4回目となる平成28(2016)年度は、平成27(2015)年12月に開催された審査委員会による厳正な審議の結果、下記3名(五十音順に記載)を選出しました。

### ●中上 淳貴

所属機関：東京大学

留学先：ドイツ・ハンブルク大学

### ●堀内 俊郎

所属機関：東洋大学

留学先：ドイツ・ハンブルク大学

### ●松岡 寛子

所属機関：京都大学

留学先：ドイツ・ライプツィヒ大学

新たな3名の受給者の皆さまにも期待を込めつつ、既に受給期間を終えた第3

回奨学生からの報告が届いていますのでご紹介いたします。

## 第3回

# 平成27(2015)年度 日本人留学生奨学金受給者

## ◇石村 克氏

### ■留学先/アメリカ・ニューメキシコ大学

- 1 仏教伝道協会の奨学金に応募したきっかけ
- 2 受給して良かったと思うこと
- 3 奨学金受給後の展望

1 以前から海外で学問の幅を広げたいと思いながら

き、応募することを決心しました。

日本でも研究を続けていたところ、広島大学の小川英世

2 現在アメリカ合衆国・ニューメキシコ州・アルバ

教授より仏教伝道協会の奨

カーキに留学しています。

学金制度を紹介していただ

日本にいる間は研究のため

の時間を作る

の時間を作るのに苦労して

いました。この奨学金

のおかげで、日本に比べて生

活費のかかる

アメリカでも、何の不安もな

くすべての時

間を使って研究に打ち込む

ことができま

す。自分の専門分野以外にも

手を伸ばす余

裕があり、学問的視野が大き

く広がりました。また、こ

ちらの先生の計らいで大学の講義に自由に出席するこ

とができ、一度勉強し終え

たことも異なる言語で学び

直すことと理解が一段と深まる

ことを実感しています。

3 この恵まれた環境の中

で、自分の研究をまとめるこ

とができ、新しいプロジ

ェクトも順調に進んでいます。

留学を終えた後には、こ

れらの成果を学会で発表し

ていく予定です。

※支給内容の詳細や応募方法等につきましては仏教伝道協会公式ウェブサイトをご確認ください  
<http://www.bdk.or.jp/>



アメリカ・ニューメキシコ大学にて  
2015年度奨学生の石村克氏と指導教授

# 第49回 仏教伝道文化賞

## 文化賞概要と受賞者紹介

### 仏教伝道文化賞／沼田奨励賞

仏教伝道文化賞並びに沼田奨励賞を選定するにあたり、国内外の各仏教宗派をはじめ、各研究機関および専門家の方々に推薦をお願いしました。

お寄せいただいた推薦状に基づいて、平成27(2015)年7月23日に選定委員会を開催し、厳正な討議を行い、受賞者を選出しました。

### 第49回 仏教伝道文化賞贈呈式

平成27(2015)年10月15日、仏教伝道センタービル(東京都港区)にて贈呈式ならびに祝賀披露宴を執り行いました。

贈呈式では、木村清孝選定委員長による審査報告の後、仏教伝道文化賞を受賞された金光寿郎氏には賞金300万円と副賞が、沼田奨励賞を受賞されたビハーラ医療団の皆さまには賞金200万円と副賞がそれぞれ授与されました。式典では、石上善應師(太正大学名誉教授)と三島多聞師(真宗大谷派参務)よりご祝辞をいただき、祝賀披露宴では二組の受賞者を祝う多くの皆さまに御出席いただき、渡邊寶陽師(立正大学名誉教授)による乾杯の発声に始まり、伊藤繁氏(武蔵野大学教授)によるエレクトーン演奏にのせ、和やかな雰囲気の中、無事閉宴となりました。



受賞関係者



審査報告をする木村清孝選定委員長



三島多聞師

石上善應師

渡邊寶陽師



### 仏教伝道文化賞

#### 金光 寿郎 氏

昭和2(1927)年岡山県生まれ。NHK「心の時代」のディレクターとして仏教を多くの人に伝え、特に地方の隠れた仏教者を掘り起こして紹介しておられます。



### 仏教伝道文化賞

#### 沼田奨励賞

#### ビハーラ医療団

(代表者 田代俊孝師)

医療と仏教の協働に努められ、研修会を開き、意見交換をし、終末医療に仏教思想をどう活かすかに取り組まれておられます。



てら  
おや  
おや  
クラブ

## 平成27（2015）年度 その他助成事業報告

# 「おてらおやぶつクラブ」のご紹介

仏教伝道協会では仏教精神、仏教文化の興隆活動を積極的に展開している国内外の団体等への助成支援事業を展開しています。今回は、その活動を支援させていただいている「おてらおやぶつクラブ」代表 松島靖朗師（浄土宗安養寺住職）にお話を伺いました。

◎聞き手「公益財団法人 仏教伝道協会 江口郁  
◎写真協力「おてらおやぶつクラブ」

——まずは「おてらおやぶつクラブ」発足の経緯と活動内容についてお聞かせ下さい。

現在、全国には140万世帯を超えるひとり親家庭があり、その約6割が経済的に困難な状態にあるといわれています。そのような環境で育つ子どもにとって食の問題は深刻であり、おやつや果物をなかなか食べるこ

とができない子どもたちもいるのが実状です。

一方、全国のお寺では熱心な檀信徒の皆さまのお参りとともに、日々たくさんのお菓子や果物をいただいています。一般的にいう「おそなえもの」なのですが、申し訳ないことに食べきれずに駄目になってしまう場合も少なくありません。そのようなことから、全国のお寺とひとり親家庭をつなぐことができないかと考えたのです。

「おてらおやぶつクラブ」では、

お寺にお供えされるお菓子や果物などを、仏さまから私たちに「おさがり」として頂戴し、さまざまな事情で経済的に困難な状況にあるひとり親家庭へ「おすそわけ」する活動を行っています。全国にあるひとり親家庭を支援する団体などを通じて、各地のお寺からお菓子や食品などをお届けしています。

平成28（2016）年2月時点で、活動に賛同いただいている寺院は344を超え、毎月3,000名ほどの子どもたちがお寺からの「おすそわけ」を楽しみにしています。

現在全国には70,000を超えるお寺がありますが、私たちの活動は、どのようなお寺でも参加、実践していただくことが可能です。今や貧困問題は全





## 最終的には全国のお寺が、 苦しむ人びとにとっての真の“駆け込み寺”として 機能する社会を作っていくことが理想です。

国どこにもある課題ですから、全国のお寺を巻き込んだ、地域に密着した社会福祉活動として実践していけたらとも考えています。

——では活動する際に気を付けていることなどはありますか。

「おてらおやつクラブ」は単なる食糧支援ではありません。檀信徒の皆さまよりお預かりした仏さまへのお供え物を「おすそわけ」するわけですから、そこには仏教が説く慈悲の実践がなされなければなりません。

“お仏飯”という言葉があります。朝一番にお仏壇や本堂の御本尊さまにお供えする炊きたてのご飯を指すこともあれば、仏さまにお供えされるもの全般を指す場合もあります。私たち僧侶は、このお仏飯を日々「おさがり」として頂戴し、育てていただく存在でもあります。

「おてらおやつクラブ」の活動は、お仏飯を「おすそわけ」する食糧支援の側面もありますが、仏さまのお慈悲をお届けするこ

と、困っている方がたが助けを求めることができる、孤立しない状況を作っていくことが最も大切であろうと思います。

——実際に「おやつ」などを受け取ったご家族の反応はいかがですか。

おやつを受け取った親御さんたちからの共通するメッセージは「自分たちのことを見守ってくれている人がいる」ことへの感謝です。孤立している状況が少しでも和らぐ効果があると実感しています。

そして私たち宗教者、とくに私のように仏教、特に浄土教を信仰する者にとっては「愚かな私たちを見守ってくれる仏さま」の存在のありがたさは自身自身の信仰に通じるところがあります。支援活動を通して親御さんより頂戴するメッセージから、改めてそのことを認識させていただくことができ、より信仰を深めるきっかけにもなっていると思います。



代表 **松島 靖朗**  
(まつしま・せいらう)

◎略歴 浄土宗安養寺住職。早稲田大学商学部卒業後、一般企業にてインターネット関連事業、企業経営に従事。平成22(2010)年、浄土宗総本知恩院にて伝宗伝戒道場満行。浄土宗僧侶として念仏布教生活を送る。平成26(2014)年、全国のお寺が参加する社会福祉活動「おてらおやつクラブ」を立ち上げ、ひとり親家庭を支援する。



おてら  
おやつ  
クラブ

## 概略

▶「おてらおやつクラブ」では、お寺にお供えされるさまざまな「おそなえもの」を仏さまからの「おさがり」として頂戴し、全国のひとり親家庭を支援する団体と協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動を推進しています。

活動に賛同していただいている全国のお寺と、ひとり親家庭を支援する各地域の団体をつなげ、経済的に困難な状況にあるご家庭へお菓子や果物、食品や日用品をお届けしています。おやつ等の支援物資のやりとりを通して、ひとり親家庭と支援団体との関係性を深めることに寄与し、貧困問題解決への貢献を目指しています。

※その他「おてらおやつクラブ」の活動の詳細やお問い合わせは公式ウェブサイトをご参照ください。 <http://otera-oyatsu.club>



現在も多くの僧侶やお寺さまをはじめとして、私たちの活動に賛同してくださっている沢山の方がたに支えられています。支援活動に必要な情報のやりとり、事務局としての業務量や活動に際してかかる経費も段々と増えているのが実状です。そのような中、助成金という形でご支援いただくことは、活

動の基盤を支えるお力をいただいていると大変感謝しています。今後「おてらおやつクラブ」の活動が、世間一般においても継続的なものとして認知、実践されるよう引き続き温かいご支援を賜ればと思っております。

——では「おてらおやつクラブ」の活動が社会に与える影響と役割とは？

「おてらおやつクラブ」の活動がより多くの方がたに広まることで、逆に世間一般の方がたの私たち僧侶に対する期待値の低さを思い知らされることもしばしばあり、その点には反省が必要ですが、それでもお寺や僧侶の活動の可能性を期待をしてくださる人が増えることは、私たちにとっても大きな励みになります。

そしてなにより、この活動がきっかけで、貧困問題が遠く貧しい国々での話ではなく、この

豊かだといわれる日本国内での話、自分たちの生活する地域の身近なところで起きている問題であると気づいていただくことが大切であると思います。

——ありがとうございます。では今後の活動の展望をお聞かせ下さい。

子どもたちの貧困問題を解消していくために、全国のお寺を起点に経済的に困難な状況にあるひとり親家庭を支援するセーフティネットを構築したいと考えています。現在の「おてらおやつクラブ」の活動を全国に広げていくとともに、それぞれの地域で、お寺・支援団体・ひとり

親家庭というつながりを更に増やしていく地域密着型の支援関係を構築していければと思っております。最終的には全国のお寺が、苦しむ人びとにとっての真の「駆け込み寺」として機能する社会を作っていくことが理想です。

——最後に当協会による助成事業について何かお考えがありましたらお聞かせ下さい。

仏教伝道協会様には、「おてらおやつクラブ」の立ち上げ当初より支援していただいております。本当にありがとうございます。



01 Activity

第45回実践布教研究会開催  
於 曹洞宗大本山永平寺

平成27(2015)年6月10日(水)から12日(金)にわたり、曹洞宗大本山永平寺(福井県)にて、「布教伝道く曹洞禅に学ぶく」をテーマに第45回実践布教研究会を開催しました。

本研究会は、現代に生きる僧侶たちが宗派の垣根を越え、自ら各宗派の仏道を体験し、それらの現代的理解の促進および各宗派間における僧侶同士の交流を目的としており、昭和45(19

70)年の第1回から現在まで継続して開催しています。

今回は、全国各地より各宗派の僧侶および寺族、22歳から85歳までの幅広い年齢層の男性38名、女性6名の44名の方がたにご参加いただき、2泊3日の研修を行いました。

曹洞宗の修行僧が行う「暁天坐禅」と呼ばれる早朝、午前3時半からの坐禅をはじめ、福山諦法院下(大本山永平寺貫首)より御言葉をいただき、奈良康明師(大本山永平寺西堂)、丸子孝法師(大本山永平寺副監院)、中野東禅師(曹洞宗龍宝寺住職)による講話等、大

本山永平寺をあげてのご支援・ご協力のもと、大変貴重な体験をさせていただき、実り多き研究会となりました。

参加者の方がたからも、「ありのままの自然を感じ、そこにある永平寺の歴史が持つ息づかいを感じながら行う自由瞑想は一生の宝となった」「(本山がある街の寺で住職をしているため)他の宗派の方がたと関わることなく生活を送っていたことに気がつけた。今回の研修に参加して他宗派の方がたも願っていることは同じだと実感できた」などの意見に加え、今後の指針となるような助言もいただき、次回以降の研究會へつながる多くのご感想をいただくことができました。



奈良康明師による講話

## 知的仏教講座

「禅を知る×書道を愉しむ」  
「人生がグッと楽しくなる、  
禅と書道」開催



鈴木猛利氏の巨大書道パフォーマンス作品

書道を通じてより多くの方が仏教文化に触れていただけるよう、人気書道家のワークショップに禅僧の法話と椅子坐禅を組み合わせた新たな講座を開催しました。

仏教と書道は古くから深い繋がりがあり、現在ではお寺での写経体験が幅広い層から人気を集めています。当協会でもさまざまな仏教文化に触れていただく機会を設けるため、協会主催の講座としては初めて、「書道」を取り上げました。

平成27(2015)年9月27日には、書道家の鈴木猛利氏と僧侶の松原信樹師(臨済宗妙心寺派龍源寺住職)を迎え、法話と椅子坐禅の後に書道のワークショップを開催しました。仏教になじみがない人にもわかりやすい法話、会場の床を大きく使った圧巻の書道パフォーマンス、一人ひとり丁寧に指導してくれるワークショップは大好評で、参加

者のアンケートには「とてもわかりやすい法話が心に届きました。書道も丁寧に指導していただき嬉しかったです」「禅のお話も書道の体験もどちらもよかったです」というコメントが多く寄せられ、仏教も書道も楽しんでいただけたようです。

平成28(2016)年3月21日には各メディアでも大人気の書道家、武田双雲氏を講師に迎え、「人生で一番たいせつなこと」をテーマに、松原信樹師のお話と共にワークショップを開催し、定員を大きく上回る方からお問い合わせ・ご応募をいただき、大変多くの参加者が集まりました。両講師の軽妙かつ心に響くお話



武田双雲氏



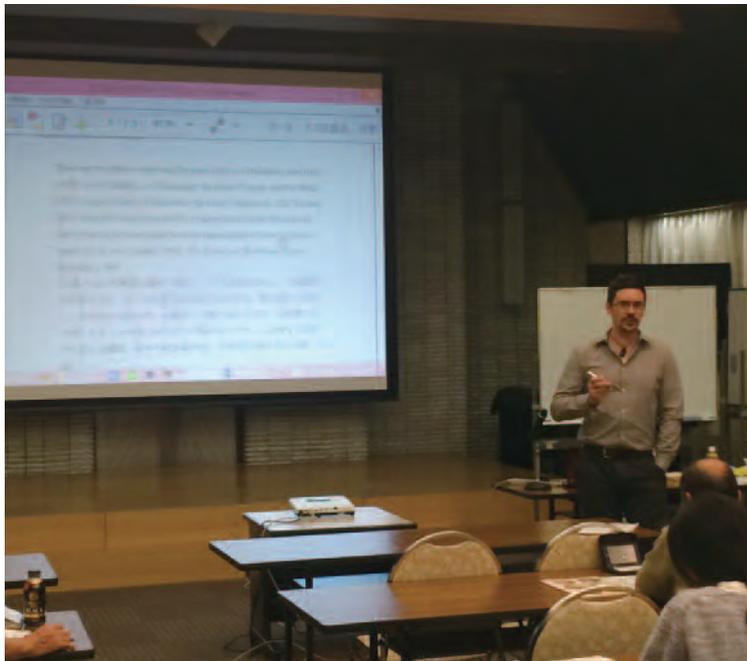
鈴木猛利氏

の数々に会場は終始大いに盛り上がり、あっと言う間に終了となりました。

今後の開催内容の詳細については、仏教伝道協会公式ウェブサイトにてご確認ください

<http://www.bdk.or.jp/>

### Activity 03 仏教聖典を 初歩英語で学ぶ会



平成27(2015)年度の「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」は、ステファン・グレイ博士(親鸞仏教センター嘱託研究員)の指導のもと、4月に開講しました。近年欧米諸国でも人気を博している禅思想に焦点を当てた「禅思想を初歩英語で学

ぶ」というテーマのもと、毎回先生が用意したテキストを使用し、初歩的な禅思想から仏教全体まで幅広く英語で学ぶ勉強会として、日本人の方はもちろん、外国人の方がたにも多数ご参加いただきました。毎回基本的な講義の後には先生を

含めた参加者同士による、それぞれの習得度にあつた日常英会話の時間も設けられ、大変ご好評をいただきました。

平成28(2016)年度は、ケネス田中先生(武蔵野大学教授・同仏教文化研究

所所長)を講師としてお迎えし、年間全11回のスケジュールで開講します。今回は「ユーモア、マンガ、歌に学ぶ仏教」をテーマに、より現代的なアプローチで仏教思想に親しめる場を提供していきます。

平成28(2016)年度の開催スケジュール他「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」の詳細につきましては、仏教伝道協会公式ウェブサイトをご確認ください  
<http://www.bdk.or.jp/>

### Activity 04 働く人のための 坐禅会



天台宗圓融寺住職阿純章師の指導のもと、平成25(2013)年度に開講した坐禅会は、好評につき3年目の開催となりました。平成27(2015)年度は、どなたでもご参加いただける

「働く人のための坐禅会」として、特に仕事帰りのビジネスパーソンに気軽に参加いただけるよう、開始時間(20:00~21:30)に配慮するなど、忙しく働く方がたにも多くご参加をいただいています。

今年度も「法話と坐禅」という、これまでの構成をそのままに、30代から60代の幅広い年齢層の方がたにご参加いただきました。当初は女性限定の坐禅会として始まりましたが、特に今年は、男性参加者も多く見受けられ、繰り返し参加していただける方も増えました。ストレスの多い現代社

平成28(2016)年度 BDK坐禅会スケジュール	
4月 19日	10月 18日
5月 17日	11月 22日
6月 21日	12月 お休み
7月 19日	1月 24日
8月 お休み	2月 21日
9月 20日	3月 28日

(注) 日程は都合により変更となる場合があります

会で忙しく働く参加者の皆さまにとつて、自身と静かに向かい合う良い機会となつていくようにです。

平成28(2016)年度も、「働く人のための坐禅会」として、原則毎月第3火曜日の開催を予定しています。詳細については、仏教伝道協会公式ウェブサイトまたは公式Facebookページよりご確認ください。

# 05 Activity

## 仏教聖典を経営に活かす会 仏教聖典を生活に活かす会

### 合同夏季研修会開催（千葉県・臨済宗妙心寺派佛母寺、曹洞宗日本寺）

仏教伝道協会では、月に一度、経営者の方がたを対象として「人を大切にする経営を」、一般の社会の方がたには、「人生の道標の一助となるように」、仏教が持つ東洋の叡智と慈悲の精神に一人でも多くの人が触れていただくことを目的に「仏教聖典を経営に活かす会」および「仏教聖典を生活に活かす会」を開催しています。

毎年夏に開催している両会の合同夏季研修会ですが、今回は平成27（2015）年の8月22日に日帰り千葉県、南房総にて開催、主に佛母寺（臨済宗妙心寺派）と日本寺（曹洞宗）を拝観しました。

#### ▼ゆっくりとした時間を満喫

臨済宗妙心寺派佛母寺  
佛母寺は、南房総の鹿野山のマザー牧場に隣接する臨済宗妙心寺派の禅刹で、昭和52（1977）年に創建されました。臨済禅の法灯

絶えることなく大切に護り、鹿野山の美しい自然を誇りとする禅寺です。

仏教伝道協会の評議員・理事を長年歴任された松原泰道師を祖父に、同じく当協会評議員をつとめられた松原哲明師を父にもつ松原覚樹師が、現在、住職をされています。

当日は、松原真砂子氏（故松原哲明師令夫人）が境内をご案内くださり、松原泰道師や松原哲明師の思い出話を通じて、仏教伝道協会のご縁の深さを感じる事ができました。また参加

者全員に抹茶を振る舞っていただき、都心の喧騒から離れ、ゆっくりとした時間を満喫しました。

#### ▼日本一の大仏の前に

曹洞宗日本寺（鋸山）  
日本寺は約1300年前、聖武天皇の勅詔を受けて、行基菩薩によって開かれた関東最古の勅願所で、開山当初法相宗に属し、天

台宗、真言宗を経て徳川三代将軍家光公の治世の時に曹洞宗となり、今日に至っています。

鋸山の南側斜面10万坪余りを境内としており、豊かな自然の中を散策しながら、お参りさせていただきました。鋸山中腹の岩肌に御本尊の大仏様（葉師瑠璃光如来）が安置されており、その前で参加者全員による記念撮影をしましたが、日本一の大さを誇るその存在に圧倒されました。



佛母寺・麻耶観音前にて

その後、千五百羅漢石像群、百尺観音像などをお参りしましたが、階段が非常に険しく、山登りをしているかのように黙々と汗をかきながら歩きました。山頂に吹く風が心地よく、怪我をする方や、体調を崩す方もなく、無事に参拝することができました。

# 平成27(2015)年度 BDKシンポジウム

Symposium

## ～仏教における科学と信仰～

平成27(2015)年度のテーマを「仏教における科学と信仰」とし、多方面で活躍中の方がたを講師に招き、第8回、第9回目のBDKシンポジウムを企画・開催しました。テーマに講師ご自身に副題を付けていただき、仏教の立場から科学と信仰について語っていただきました。



### 第

8回は平成27(2015)年7月24日に、仏教研究者として第一線で活躍されている佐々木閑氏(花園大学教授)をお招きし、「我々はなにをよりどころとして生きるべきか」という副題のもと、仏教と科学の関係性についてお話いただきました。

第9回は平成28(2016)年2月12日に、ターミナルケアをはじめとする、死に関するさまざまな事象の研究者として著名なカール・ベッカー氏(京都大学このろの未来研究センター教授)をお招きし、「信仰」に焦点を当て、「阿弥陀信仰の科学的根拠」についてお話いただきました。

毎回120名の定員を大幅に上回るお申し込みがあり、いずれも大盛況となりました。シンポジウムの参加者からは「いつもなかなかお話を聞けない講師の方

がたにお会いでき、直にお話を伺うことができるので毎回楽しみにしています」というお声もいただき、リピーターとして何度も足を運んでくださる方も増えています。今後も仏教伝道協会ならではのシンポジウムを企画し、より多くの皆さまに、さまざまな視点からみた仏教に触れていただける場を提供できるよう尽力していきます。

尚、第8回および第9回でいただいた参加費はすべて公益財団法人全日本仏教会(ネパール大地震被災地支援)に寄付させていただきます。

平成28(2016)年度BDKシンポジウムの開催予定につきまして仏教伝道協会公式ウェブサイトにてご確認ください  
<http://www.bdk.or.jp/>



## 各講演概要・講師略歴



第8回

### テーマ：「仏教における科学と信仰」 ～我々はなにをよりどころとして生きるべきか～

開催日：平成27（2015）年7月24日（金）

時 間：18：00～20：00

講 師：佐々木 閑（ささきしずか）花園大学教授

略歴●昭和31（1956）年、福井県生まれ。京都大学工学部及び文学部卒業。京都大学大学院文学研究科博士課程満期退学。著書に、『出家とはなにか』（大蔵出版）、『インド仏教変移論』（大蔵出版）、『科学するブッダ 犀の角たち』（角川学芸出版）等。



第9回

### テーマ：「仏教における科学と信仰」 ～阿彌陀信仰の科学的根拠～

開催日：平成28（2016）年2月12日（金）

時 間：18：00～20：00

講 師：カール・ベッカー（Carl Becker）

京都大学こころの未来研究センター教授

略歴●昭和26（1951）年、米国生まれ。ハワイ大学で学んだ後、京都大学等に留学し、南イリノイ大学、大阪大学、筑波大学での教職を経て、現職。著書に『死の体験—臨死現象の研究』『愛する者は死なない』、『愛する者をストレスから守る』などがある。





**Yuuka (ガッソ有香)** ●山形県誓願寺浄土宗教師。大本山増上寺にて修行。平成18(2006)年より自坊で仏事法要をしながらヨガの指導を続けている。自らの浄土宗信仰とヨガ実践の経験を元に、穏やかで健康的なライフスタイルを提案。現代における仏教とヨガの可能性を模索している。初心者にもわかりやすく丁寧な指導が特徴。現在はヨガ講師育成にも携わり、テレビコマーシャルや雑誌などでのポーズ指導、出演多数。

**保持資格、修了しているティーチャーズトレーニング/米国ヨガアライアンス認定講師** (国際ヨガ資格) 陰ヨガ(サラ・パワーズ)、リストラティブ(UTL)、マタニティ(ジャンスクレアフィールド)、トラウマアプローチ(UTL)、ヨーガスートラ(向井田みお)、ヨーガニードラ(イシュタアドバンス)トレーニング終了。

- \*オンラインヨガレッスン動画配信サイト『Yogalog』ディレクター
- \*平成24(2012)年～  
ヨガウェアReal Stoneアンバサダー

公式ブログ：<http://yuuka.blogspot.jp/>

るヨガのポーズと言われるものは、ヨガの中のごく一部なので。ヨガと仏教はそれぞれが密接に関わりあつて成立していると言えます。ヨガに関する経典は数多く存在していますが、日本人が読むことができるものが少ない上に仏教的視点で書かれたものが多いように思います。

私はヨガインストラクターである以前に浄土宗の僧侶としてヨガと仏教との繋がりを感じながら実践しています。ヨガを練習することで、それぞれの宗派で異なるとは思いますが、浄土宗というとお念仏の質があるとても言いましようか、ヨガはお念仏の助業(サポート)してくれる、後押ししてくれるという意)となり、より質の高いお念仏を唱えることができると思っています。これは極論ですが(笑顔で)だからだとテレビを見ながら過ごし、お菓子を無意識に食べつつ「南無阿弥陀仏」と唱えるのと、ヨガをして呼吸法を実践し、心と身体を整えてすつとした後に「南無阿弥陀仏」と唱えるのでは全く違うと思うのです。本来の信仰心を後押ししてくれるのがヨガだと思えますし、そのようなことをすすめていきたいと思っています。

と思っっています。普段いかに自分の身体を上手く使いこなせていないかが分かります。身体を使いこなすことにより「自分はこんなことも出来るのか!」と自信にも繋がりますし、それが日常生活で言えば、より積極的な姿勢でご家族やご友人、職場の皆さまなど人とのつながりを強めるきっかけになる、そんなヨガの魅力を伝えていければと思っっています。

がら色々な繋がりを発見できているように思います。

**ありがとうございます。では、ヨガと仏教との関わりを教えてくださいいただけますか?**

歴史をたどっていくと様々な説があるとは思いますが、「BDK 仏教ヨガ講座」では、現代社会における「仏教とヨガの可能性」というものを伝えたいと考えています。私の年齢や性別を考えると、日常生活に活かすことができるヨガを分かりやすく伝えていけたらという思いがあります。

よく皆さまに「仏教とヨガとどちらが古いと思われませんか?」と質問するのですが、普通はなんとなく「仏教」と答えたくなる仏教は約2,500年前、ヨガは諸説ありますが、インダス文明の頃つまり約6,700年前から存在し、いずれもインドが発祥です。最近のヨガブームなどもあつて、中にはヨガはアメリカで生まれたエクササイズというイメージをお持ちの方もいるかと思ひます。

今こそヨガマットの上で体操するというイメージだと思いますが、「ヨガ」の言葉の意味

は、結合、調和、結ぶ、繋ぐなどなど様々で、昔から修行のひとつとして捉えられてきました。多くの方が抱く体操や運動のイメージは最近定着してきたもので、その昔はお釈迦さまもヨガを実践されていたと言われています。当時は自己を見つめ直す、自己鍛錬法や瞑想法として取り入れられていました。ですからお釈迦さまが菩提樹の下で瞑想をされていますが、その座つた姿勢がヨガそのものではないか、とも言われています。歴史を紐解いていくと仏教伝来とともにヨガも伝わったとも言われていますが、現在伝わって

るヨガのポーズと言われるものは、ヨガの中のごく一部なので。ヨガと仏教はそれぞれが密接に関わりあつて成立していると言えます。ヨガに関する経典は数多く存在していますが、日本人が読むことができるものが少ない上に仏教的視点で書かれたものが多いように思います。

私はヨガインストラクターである以前に浄土宗の僧侶としてヨガと仏教との繋がりを感じながら実践しています。ヨガを練習することで、それぞれの宗派で異なるとは思いますが、浄土宗というとお念仏の質があるとても言いましようか、ヨガはお念仏の助業(サポート)してくれる、後押ししてくれるという意)となり、より質の高いお念仏を唱えることができると思っています。これは極論ですが(笑顔で)だからだとテレビを見ながら過ごし、お菓子

なるほど。では「ヨガ」の現代人に与える効果とは何でしょう？

リラックス、癒し、デトックス（身体の浄化）、内臓機能・筋力アップ＝身体の機能を高める、無駄なものがそぎ落とされてクリアになる、など挙げればきりが無い位、皆さまの心身に与える影響は大きいと思います。ヨガの呼吸と心には密接なかかわりがあります。情緒の安定をはかることができ、自然と他人に優しくなることができたり、自分自身に満足ができたリ、ヨガをした後に本来するべきものをする、と後押しになったりすることが多く見受けられます。そういった意味でもこころに対する効果は絶大だと思います。

ひとつすごいなと思うことは、一般的なヨガのクラスは1回3,000円程度するのですが、皆さまわざわざ静かな時間を買って求めているわけですよね。それだけ本来の自分というものが見えづらくなっている状況があり、忙しい中でも何もしない時間や内に向かって自分と向き合う時間が必要だということです。本来の自分を認める

時間として、世間との関わりと

自分の本質を確認する作業としてヨガを取り入れられている方も多いです。様々なものが溢れる現代において色々なものに囲まれ覆われてしまい、本来の自分の姿が見えにくくなり生きづらくなっている状況があるかと思えます。そういったものをそぎ落として掃除をしていくというのがヨガなのです。そしてそれがクリアになったときにわいてくる安堵感ですとか、自分の本質というものを確認する作業が必要だと思えます。それをするこゝろによって本当に自分が今、すべきことは何なのか、本当に欲しいものは何なのか、明らかになってくるのかなと。

最近電車に乗っているとスマートフォンや携帯電話を片手にしている方がたを本当に多く見かけます。例えば一日中仕事で心身ともに疲れて、帰りの電車でもスマートフォンを片手に更に新しい情報を無理矢理詰め込み、家に帰りついてゆっくりしようとしてテレビをつけ、更に新たな情報に自分の意志を向けてしまう、これでは心身共に疲弊してしまいますよね。目を閉じて静かな場所、外ではなく内側を見ていくことが大

事だと思えます。

ヨガをしてふと自分の肩の痛みに気付く、自分の肩はここまじか動かないのか、そのような些細なことで気付きを与えてくれる、とても大きなステップだと思えます。そこから自分の身体と向き合うことができ自分自身への理解が深まっていくのだと思えます。

**確かにそのようなお疲れ気味の方がたが多くいらつしやいますよね。そのような皆さまからよくリクエストされるヨガポーズなどはありますか？**

はい。安眠のためのポーズはよくリクエストされますね。そして逆に仕事でのパフォーマンスを上げるために、眠っている力を呼び覚まし、もつと前向きになりたい、無気力をなくしたい、というようなりクエストもよくいただきます。

例えば朝起きて大きく伸びをしたりしますよね。それとこれからやるぞ！というときのポーズって同じように背骨を反つて胸を開いたようなかたちですよ。逆に疲れた、休みたい、というときに人は背中を丸めています

すよね。私たちの身体は自分たちが思っている以上に利口で、

前者はこれからの未来を受け入れる体勢を作っていく姿勢で、交感神経が優位になります。それによって食欲がわいたりやる気が出たりする効果があるわけです。逆に背中を丸めてゆつくり呼吸をすると意識を静めていく効果があり、今度は副交感神経が優位になり、リラックスでき

るわけです。心と身体と呼吸は密接なつながりがあり、ヨガは姿勢によって全く違う効果があります。クラスの中では、色々な方がいらつしやいますから、その両方を満たすことができるようバランス良く、交互に交感神経と副交感神経を刺激していく手法を取り入れています。

**最後に「仏教ヨガ講座」にこれから参加してみようと考えている方へのアドバイスをお願いします。**

まず簡単なことですが（微笑みながら）第一歩はとにかくやる！とありえず3回来てみて考えるということでしょうか。ヨガに限らず仏教もお念仏も何事も実践を積むことは大切なこと

です。頭を使ってよく考えることはとても大切なことですが、それだけでは残念なことですよ。ものごとは何でもやっているとくに意味が分かることが多いですし、ヨガはあくまでスポーツではないので優劣を考えません。長年優劣を競うことを推奨する教育を受けてきていると、ついそういったことを考えすぎてしまうのですが、自分のために「ヨガをするのですから、無理をしないでリラックスして参加していただきたいですね。ヨガは、優等生でいる必要もなく、となりの方より上手くできる必要もなく、誰かに認められる必要もないのですから、人と比べず自分とも戦わず、自分のペースで実践していくことが大切です。自分のことを知るためのヨガですから、リラックスすることに集中して欲しいですね。そして社会とのつながりにおいて、いかに生きやすい環境を作るか、自分への理解を深めたら、自分自身の心のシャッターを開けて色々な人やものとながっていくことです。ヨガは、畳一畳分のスペースと身体ひとつでできます。どなたとでも一生つきあっている友達のような存在ですから、是非とも年



年齢・性別を問わずとにかく気軽に  
ご参加いただきたいですね。

終始朗らかな笑顔でお話くださった有香先生の親しみやすい人柄からもうかがうことが出来る和やかな雰囲気ヨガ講座に、思わず聞き手も本格的にヨガを始めたくまりました。オフィス街では珍しい、天井が高く広々とした環境の中で、のびのびとヨガを実践する、一般的なヨガスタジオではあまり見受けられない開放的な空間に有香先生のご法話が静かに響きわたります。忙しい毎日を通り越す方もたも仕事帰りに、空き時間に、無理なく参加でき、適度に身体を動かしながらリラックスできる環境があります。

\* \* \*

1年間多くの方がたにご参加いただいた当講座は、平成28(2016)年度も引き続きガッソ有香先生のご指導で開催させていただきます。「ヨガ」を通じて少しでも多くの皆さまに仏教との繋がりを感じていただきつつ、ご自身の身体と向き合いながら日々の生活に取り入れていただければと願っています。

## 「BDK 仏教ヨガ講座」講師 ガッソ有香師に教わる

# 自宅で簡単ヨガポーズ *Let's Try Some Yoga Poses!*

### ポーズを行う時の注意

- ◎ ゆっくりとした動作で行う事。痛みがあれば無理をしないこと。力み過ぎず、気持ちの良い伸びを感じながら、リラックスして行いましょう。
- ◎ 鼻から吸って鼻から吐く、ゆっくりと深呼吸をするように。ポーズが整ったらじっと動かず、5～10回程呼吸を試みましょう。

#### 開脚

### ウパヴィシユタコーナーサナ (座った開脚のポーズ)

#### <ポーズの取り方>

90度に脚を開き、かかとを前に押し出します。吸いながら背筋を伸ばし、吐きながら少しずつ前に上体を倒します。

#### <ポイント>

臀部をしっかりと床に根付かせ、背中丸め過ぎないように。

#### <効果>

下半身のむくみ、冷え、腰痛、座骨神経痛、婦人科系の不調などに効果があります。



#### ツイ

### アルダムツェンドラーサナ (半分の聖者マツェンドラのポーズ)

#### <ポーズの取り方>

写真の様に上下に脚をからめて座ります。左右の坐骨に均等に重心をかけて、吸いながら背筋を真上に向かって伸ばし、吐きながらねじります。

#### <ポイント>

吸いながら胸を引き上げ、吐きながら腰、胸、首という順でねじります。

#### <効果>

腹部を引き締める。内臓器官の機能を整える。姿勢を良くする。



#### 前屈

### パスチモッターナーサナ (西側を伸ばすポーズ)

#### <ポーズの取り方>

両脚を前に伸ばし揃えたらかかとを前に押し出します。吸いながら背筋を伸ばし、吐きながら少しずつ前に上体を倒します。

#### <ポイント>

肩の力を抜いてリラックス。深い呼吸を繰り返しましょう。

#### <効果>

神経を鎮め、落ち着きを取り戻します。寝る前にオススメ。



# 海外協力機関のご紹介



## お問い合わせ一覧

●各国での『仏教聖典』頒布やその他活動の詳細に関するお問い合わせは、お近くの仏教伝道協会までお願いします。

## 北米地区

米国仏教伝道協会  
BDK America

1675 School Street,  
Moraga, CA 94556 U.S.A.  
Tel: +1(925)388-0067 Fax: +1(925)388-0331  
E-mail: orders@bdkamerica.org (対応言語: 日本語・英語)  
<http://www.bdkamerica.org>

ハワイ仏教伝道協会  
BDK Hawaii

1757 Algaroba Street,  
Honolulu, HI 96826, U.S.A.  
Tel: +1(808)942-1511 Fax: +1(808)942-2622  
E-mail: bdkhawaii@gmail.com (対応言語: 英語)  
<http://www.bdkhawaii.com/>

カナダ仏教伝道協会  
BDK Canada

c/o Mitutoyo Canada Inc.  
2121 Meadowvale Blvd.  
Mississauga, ON, CANADA L5N 5N1  
Tel: +1(905)821-1261 Fax: +1(905)821-4968  
E-mail: honjo@bdkcanada.com (対応言語: 日本語・英語)

## 中南米地区

メキシコ仏教伝道協会／メキシコ恵光寺  
BDK Mexico

Prolog. Eugenia No. 17, Col. Nápoles, C.P.03810  
México D.F., MEXICO  
Tel/Fax: +52(55)5669-1088  
E-mail: bdkmexico@prodigy.net.mx (対応言語: 日本語・スペイン語)

## 南米地区

南米仏教伝道協会  
BDK South America

a/c Mitutoyo Sul Americana Ltda.  
Av. João Carlos da Silva Borges, 1240 CEP 04726-002,  
Cx. Postal 4255, Santo Amaro, São Paulo-SP, BRAZIL  
Tel: +55(11)5643-0006 Fax: +55(11)5641-3745  
E-mail: bdk@mitutoyo.com.br (対応言語: 日本語・ポルトガル語)

## 欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会／ドイツ恵光日本文化センター  
BDK Europe (EKO-Haus der Japanischen Kultur e.V.)

Brüggener Weg 6,  
40547 Düsseldorf, F.R. GERMANY  
Tel: +49(211)577918-0 Fax: +49(211)577918-219  
E-mail: pool@eko-haus.de (対応言語: 日本語・ドイツ語)  
<http://www.eko-haus.de>

英国仏教伝道協会  
BDK U.K.

c/o Mitutoyo(UK)Ltd. Joule Road, West Point  
Business Park, Andover, Hants SP10 3UX U.K.  
Tel: +44 1264-353123 Fax: +44 1264-354883  
E-mail: bdk@mitutoyo.co.uk (対応言語: 日本語・英語)

## 日本以外のアジア地区

アジア仏教伝道協会  
BDK Asia

c/o Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.  
24 Kallang Avenue, Mitutoyo Building,  
Singapore, 339415, SINGAPORE  
Tel: +65 6294-2211 Fax: +65 6299-6666  
E-mail: bdk@mitutoyo.com.sg (対応言語: 日本語・英語・中国語)

台湾仏教伝道協会  
BDK Taiwan

4F., No.71, Zhouzi St., Neihu Dist.,  
Taipei City 114, TAIWAN (R.O.C)  
Tel: +886(2)5573-5913 Fax: +886(2)8752-3267  
E-mail: sharon@mitutoyo.com.tw (対応言語: 日本語・英語・中国語)



## 🇺🇸 米国仏教伝道協会

## NORTH AMERICA



新事務所開所式出席者と沼田会長（前列中央右）



新事務所開所式（桜の木植樹）



モラガオフィス外観

### 米国仏教伝道協会 BDKアメリカ

（アメリカ・カリフォルニア州）

平成27（2015）年5月5日、仏教伝道協会の沼田智秀会長、生田忠士常務理事出席のもと梅津廣道師（米国仏教団総長）に導師をお願いして米国仏教伝道協会（以下BDKアメリカ）の新事務所開所式を行いました。昭和59（1984）年に沼田仏教翻訳研究センターとしてスター

トしたバークレー市（カリフォルニア州）の事務所が手狭になってきたため、この度同州内のモラガ市への移転となりました。  
当日は米国仏教関係者約30名にご出席いただき、法要、記念植樹などを行いました。昼食の時間には琴と尺八の演奏などを聞きながらご出席の皆さまにご歓談いただきました。沼田会長からは「仏教伝道協会設立を発願した沼田恵範師の命日にあたるこの日に、皆さまと共に新しい事務所の開所式が出来ましたことに喜び

と不思議なご縁を感じている。これからも仏教伝道に精進していくので是非皆さまにご協力をお願いしたい」との言葉がありました。  
9月には、新たな地で地元の方がたとの交流を深めるべく、26日に開催されたモラガ市主催の「梨とワインのフェスティバル」にBDKアメリカもブースを出展して日本刺繍と生花を展示しました。また9月28日〜10月2日には、新事務所にて日本刺繍の展示会を開催し、地域の皆さまとの交流を図りました。尚、こちら

のイベントは今後も継続的に行う予定です。  
10月には、毎年その年に英語で発刊された仏教学関連書籍の中から選出される「沼田智秀優秀書籍賞」にロサー・リダローズ博士（ドイト・ハイデルベルク大学上席教授）とサン・ファ博士（中国・北京大学教授）の共著の『Buddhist Stone Sutras in China』（中国佛教石經）が選ばれました。中国の岩山に彫られた經典について写真を多く取り入れて書かれたこの本は、この後16巻まで発刊されるそうです。表彰式とシンポジウムは、10月30日にカリフォルニア大学バークレー校にて約60名の来賓を迎え開催されました。



仏教儀式音楽 (チベット)



仏教儀式音楽 (韓国)

2月に開催された定時理事会では、日本から仏教伝道協会の沼田智秀会長および生田忠土常務理事が出席されました。会議後はマウイへ赴きラハイナ浄土宗およびラハイナ本願寺を訪問させていただきました。BDKハワイの理事の一人山下美喜男氏が同行しハレアカナ山頂まで行きました。オアフ、マウイに滞在した一行は終始、今後のBDKハワイおよびBDKアメリカの運営について積極的な議論を交わし非常に有意義な時間を過



ラハイナ浄土院にて

### 「仏教儀式音楽の演奏会とシンポジウム」開催

マーク・ブラム教授  
(カリフォルニア大学バークレー校)からの特別報告

米国仏教伝道協会では、その他の支援活動として「仏教儀式音楽の演奏会とシンポジウム」を開催しました。催しはカリフォルニア大学バークレー校(以下UCバークレー)仏教学センターにて11月6日、7日の2日間にお

たって行われました。

当日はUCバークレーの学内各所にて8カ国の代表による演奏や9名のパネリストによるシンポジウムを行いました。音楽を聴くことすら禁じられているというセラヴェーダ派の僧侶たちの存在は大変興味深く、シンポジウムでは主に歌と詠唱の違いに重点を置き議論がなされました。スリランカとラオスの僧侶たちは、演奏を「詠唱儀式」と呼んでいましたが、実際にはミュージカルのようなものでこちらも非常に興味深い内容でした。以前は厳しい制限のあった大乘仏教(マハヤナ派)の儀式演奏も近年は制限がなくなりつつあり、チベット、ネ

### BDKハワイ (アメリカ・ハワイ州)

BDKハワイ

ハワイ仏教伝道協会(以下BDKハワイ)では、その活動運営費を15室からなるアパート経営による利益を基にしています。アパートも既に建設より25年が経過していますので、平成27(2015)年に大規模補修・改修を行い、平成28(2016)年も引き続き作業を進めていく予定です。

今回の催しは、特にUCバークレー研究員のトレント・ウォーカー氏、元BDK奨学生でもあるミケラー・ム

パール、中国、韓国、日本代表の演奏では、管楽器や踊りなど、より自由な発想を取り入れているものもありました。

今回の催しは、特にUCバークレー研究員のトレント・ウォーカー氏、元BDK奨学生でもあるミケラー・ム

ロス氏の献身的なご協力もあり約1年余りの計画期間を経て実現することができました。演奏会とシンポジウムの開催により「仏教儀式音楽」がいかに仏教の教えに基づいたものかということが、参加された皆さまにも理解していただけたようです。

ごすことができました。

4月にはハワイ大学で開催されたジャロッド・ブラウン氏(アメリカ・ベレア大学客員講師)の講義を後援させていただきますました。ブラウン氏は「東南アジアにおける仏教と暴力」と題しミャンマーの現状を訴えました。講義はBDKハワイとシャミナード大学(在ホノルル・カソリック系私立大学)との共同運営がなされている異

## 🇨🇦 カナダ仏教伝道協会

## NORTH AMERICA

文化交流プログラムのフジタニ・ヨシアキ氏によって組織されました。

11月には前述のフジタニ氏により「音を通じた癒やし」と題して、レイラ・アン・フィリップス氏とハワイ・チャンター・エイラによる、ハワイの原住民に古くから伝わる人びとに良い影響をもたらすとされる御詠歌のデモンストラーションが行われました。

BDKハワイ職員で『仏教聖典』頒布の責任者であるクライド・ウィットワースは現在ハワイ平等院で月に一度メデイテーション(瞑想)のクラスを受け持っています。その他「デス・カフェ」という人生の終末を考える機会を持つ集まりも主催していますが、最も重要な活動として『仏教聖典』やその他BDK書籍・冊子等の頒布があります。平成27(2015)年は、『仏教聖典』を3,596冊、「ブツダのおしえ」を3,226冊、「仏教のひみつ」を1,000冊、キンドル版の『仏教聖典』を283冊頒布しました。

平成27(2015)年の締めくくりは、仏教伝道協会の設立50周年を記念して12月に東京で開催されたBDKグローバル会議です。多くの海外協力機関代表者が出席し、未来の仏教伝道協会の展開について活発な議論がなされ大変素晴らしい機会となりました。



ハワイ・平等院にて『仏教聖典』を紹介するウィットワース職員



“仏教と暴力”についての講義をする  
ハワイ大学・ブラウン研究員



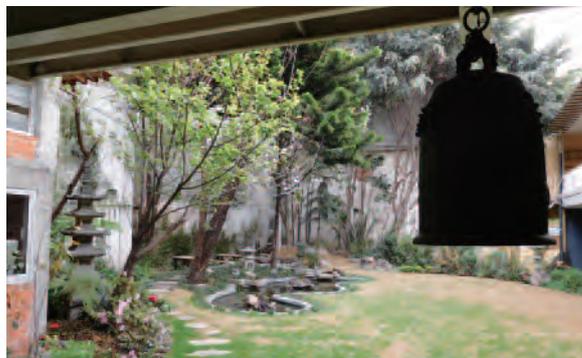
### カナダ仏教伝道協会 BDKカナダ(カナダ)

平成27(2015)年 世界仏教女性会議開催

カナダ仏教伝道協会は、5月30日、31日の二日間にわたって開催された平成27(2015)年世界仏教女性会議を支援させていただきました。約1,800名の仏教徒の方々が、日本、ブラジル、アメリカ本土、ハワイやカナダなどから参加され、日本からは浄土真宗本願寺派門主の大谷光淳師にもご臨席を賜りました。



法要に参列する地元住民の方がた



新たに整備されたメキシコ恵光寺境内



桜の木の下で和菓子教室参加者と茶えん女将桂氏(一番左)



法要の様子

### メキシコ仏教伝道協会 ・メキシコ恵光寺 BDKメキシコ (メキシコ)

メキシコ仏教伝道協会―メキシコ恵光寺(以下、恵光寺)では、あらゆる機会を仏教伝道の場と捉え、多くのカンソリック教徒の方がたが住むこの地で、み仏の教えを伝えさせていただいています。中でも仏式の冠婚葬祭は、地元の方がたには大変新鮮に映る様子で注目を集めており、導師の所作や読経、法話などを通して日本文化の風俗習慣や教えが伝承されています。メキシコには100年以上の移民の歴史があり、多くの日系人が居住しています。昭和55(1980)年以

降、毎年8月に行なわれる盂蘭盆会(お盆)法要は、恒例の行事として多くの方がたが集います。主催者である日本メキシコ会館の推薦により導師は恵光寺住職が勤めています。現在メキシコにおいて、政府公認のもと仏前の公式儀式を司ることができているのは、恵光寺住職のみとなっています。仏前でのお勤めは、他にも通夜や葬儀、結婚式などがあります。が、いずれも住職が導師を勤め、そういった意味でも皆さまのお役に立させていただいています。

また恵光寺では毎月第3木曜日の夕刻より「祖先祭」を行っています。祖先祭では、宗教宗派を超えて、私たちの「祖先」に感謝します。通常仏教徒は仏さまに、キリスト教徒は神さまに、など様々ですが「祖先祭」では、私たちの最も身近な存在であるご先祖さまを偲び、感謝の心をもって手を合わせ、法話を聞かれます。平成27(2015)年、恵光寺では境内を大きく改装しました。広々とした庭園にはたくさんの方がたが集い、行事の前後などの歓談や憩いの場としてご利用いただいています。平成28(2016)年のはじめには、早速『和風喫茶―茶えん』(在恵光寺境内)で、日本からお越しいただいた和菓子講師の指導のもと4回にわたって和菓子教室が開催されました。試食会は、境内の桜の下で行われ、今回の催しが大変好評であったため国際交流基金より正式に公式イベントとして開催したいとの依頼があり、また一つ新たな仏教文化伝道が増える良い機会となりました。


**アジア仏教伝道協会**
**アジア仏教伝道協会  
BDKアジア**

(シンガポール)

**ヴェサック・デーでの  
『仏教聖典』頒布報告**

アジア仏教伝道協会（以下BDKアジア）にシンガポール仏牙寺龍華院より『仏教聖典』を6月1日のヴェサック・デー\*のイベントにおいて600冊頒布したいという大変ありがたい依頼をいただきました。このイベントに世界中から集まった寺院や福祉施設関係者の皆さまに、シンガポール仏牙寺龍華院と慈光福利協会が共同で、400冊の英語版、200冊の中国語簡体字版の『仏教聖典』を配布してくれました。

\*日本語では花祭りや釈尊祝祭日ともいわれ、主にアジア各国で祝われており、ヴェサック祭、ウエーサーカ祭、ウエーサークなどとも呼ばれている。このお祝いは、仏教の盛大な祭典で、お釈迦様にまつわる物語を描いた壁画や電飾で街は飾り立てられ、露店も出て大賑わいの一日となる。国によって開催時期や内容は異なるが、多くは通常5月や6月に開催している。

シンガポール仏牙寺龍華院が建立した仏牙寺は、唐の時代の建築技法を土台として、スリランカにある歴史的な佛歯寺に基づいて建てられました。開設以来、仏牙寺はシンガポールのチャイナタウンでの人気観光地となつています。

慈光福利協会は、障がいを持ち、医療、特殊教育等の援助を必要とされている方がたへの介護や介助、看護などを推進する慈善団体です。仏教の教えを通じてその文化や慈愛のこころを学ぶ機会を提供し幅広い活動をされています。今後もBDKアジアを通じて定期的にこのようなイベントで『仏教聖典』を頒布していただけるとのお約束をいただきました。



『仏教聖典』を紹介する説明コーナー

**イベントで頒布された『仏教聖典』の内訳**

英語版	400 冊
東南アジア圏	321 冊
東アジア圏	79 冊
中国語簡体字版	200 冊
東南アジア圏	144 冊
東アジア圏	35 冊
その他地域	21 冊
<b>合計</b>	<b>600 冊</b>



シンガポール仏牙寺龍華院スタッフと来場者



### ヨーロッパ仏教伝道協会 「恵光」日本文化センター BDKヨーロッパ (ドイツ)

#### ドイツ「恵光」日本文化センター 30周年記念式典開催

平成27(2015)年は、ヨーロッパ仏教伝道協会(現在の社団法人ドイツ「恵光」日本文化センター)の登記申請が昭和60(1985)年にデュッセルドルフ市に受理されてから30年の節目の年になりました。このことを記念して、7月3日にドイツ「恵光」日本文化センターの設立30周年記念式典が開催されました。

式典当日は35度を越える大変な暑さの中、100名を越す招待客が来場しました。記念式典に先立ち、本堂で記念法要が開かれ、ケルンの雅楽アンサンブルの演奏と読経が行われました。法要後、記念植樹が行われ、本堂の脇にライラックの木が植えられました。

その後、恵光ホールに場所を移して、30周年記念式典が行われました。初めに仏教伝道協会の沼田智秀会長より、30年間「恵光」日本文化センターに関わって下さった多くの方がたへの謝辞が述べられたあと、ノルトライン・ヴェストファーレン州首相のハンネローレ・クラフト氏(対連邦・

欧州・メディア関係大臣シュバルドゥレン氏による代読)、デュッセルドルフ市長のトーマス・ガイゼル氏(市助役コンツェン氏による代読)、在デュッセルドルフ日本国総領事の嶋崎郁氏らから祝辞をいただきました。

挨拶の前後には、後藤真起子氏による琴の演奏や渡邊絹代氏による日本舞踊が披露され、大変和やかな雰囲気の中で式典となりました。また、式典の後半には30周年を記念して作成された「恵光センター30周年記念誌」の贈呈式が行われ、恵光センターの青山隆夫所長から沼田会長に記念誌が手渡されました。記念誌には恵光セン



30周年記念法要の様子

ターが歩んできた30年の足跡が記されていて、掲載された多くの写真が30年の歴史の重みを物語っていました。今回、式典にご出席いただいた皆さまをはじめ非常に多くの方がたのご

助力・ご支援によりドイツ「恵光」日本文化センターは30周年を迎えることができました。今後もドイツと日本の文化の架け橋となるべく積極的に活動していきます。



30周年記念植樹 (左からアンゲリカ・シュバルドゥレン NRW 州対連邦・欧州・メディア関係大臣/沼田会長/フリードリッヒ・コンツェン デュッセルドルフ市助役/嶋崎郁 在デュッセルドルフ日本国総領事)

# ヨーロッパ仏教伝道協会

**ハンブルク大学 沼田仏教講座  
日本仏教専任教授職  
新設記念式典開催**

平成27(2015)年7月2日、ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所で、沼田仏教講座「日本仏教専任教授職設立式典」が行われました。

フルートとチェンバロによるバッハのソナタの演奏後、ズザンネ・ルツプ氏(ハンブルク大学副学長)の歓迎の言葉をうけて、仏教伝道協会の沼田智秀会長が、教授職設立によりドイツにおいて日本仏教研究がさらに深められることを期待していることを述べました。これにオリヴァー・フック氏(ハンブルク大学文学部長)と安沢隆男氏(在ハンブルク日本領事)の挨拶が続き、次に「世界の仏教研究を推進、仏教伝道協会50年の活動」と題し、桂紹隆師(広島大学名誉教授・当協会理事)の講演が行われました。

沼田智秀会長により昭和40(1965)年、東京で設立された仏教伝道協会は、仏教研究促進のため、現在北米圏では10大学、欧州圏ではオックスフォード大学、ロンドン大学についてライデン大学、ウイーン大学、ハンブルク大学に沼田仏教講座を開設し、毎年招聘教授による教育・研究の場を提供しています。同大学では昭和48(1973)年以来、平成17(2005)年までランベルト・シュミットハウゼ

ン氏(ハンブルク大学教授)がインド学・仏教学研究を担当し、ハンブルク学派として多数の研究者を世界の研究機関へ送り出しています。

同大学のインド・チベット・中国・日本等の各地域仏教研究を統合して、平成19(2007)年に仏教学研究センターが設立されました。その活動として市民へ成果の伝達・広報を積極的に進めていて、これに仏教伝道協会が支援することにより、名称は「沼田仏教学センター」とされ、平成25(2013)年7月11日、今回と同

様に式典が行われました。

平成27(2015)年、いよいよハンブルク大学に沼田仏教講座・日本仏教専任教授職が設立されたこと、ミヒヤエル・ラディヒ氏(ニュージーランド・ヴィクトリア大学ウェリントン校教授、2013年の沼田仏教講座担当教授)を歓迎して、ミヒヤエル・ツインマーマン氏(ハンブルク大学教授・同仏教学研究センター長)による謝辞で式典は終了しました。式典後には出席いただいた多数の市民、学生の皆さまに寿司と飲み物が振る舞われ、そ

の後10月1日にシュテフェン・デル氏(ハンブルク大学教授)が正式に就任しました。



記念式典にて挨拶をする沼田会長



ハンブルク大学沼田仏教講座関係者と沼田会長



昼食会にて挨拶をするハンブルク大学副学長・ルツプ教授



フルートとチェンバロによる演奏(記念式典)

## 努力（どりよく）

努力とは、つとめはげむこと、ほねおること、精を出すことという意味です。

仏教では、さとりに至る道として八正道はつしやうどうが説かれます。

八正道とは、正しいものの見方、正しいものの考え方、正しいことば、

正しい行い、正しい生活、正しい努力、正しい念おもい、

正しい心の統一の八つの正しい道です。

この六番目にある正しい努力ということですが、

このことについて、『分別ぶんべつ聖諦しょうたい経きやう』に、

正しい努力とは、正しいことに向かつて怠ることなく努力すること。

と説かれています。この「正しいこと」とは縁起の道理に順ずるということです。

簡単にいいますと、みんなに生かされて生きているという縁起の道理に立って、

わが「いのち」を生かしてくださいる周りの人の幸せにつながるような努力が、

正しい努力なのです。

わが「いのち」を生かしてくださいる周りの人びとの迷惑を省みず、

自分のためだけにする努力は間違っているのです。

（仏教伝道協会 会長 沼田智秀 著『ささえあつて』 — 百八つのおもい — より）